

平成 27 年度事業報告書と財務諸表

目次

I	法人の概況	2
II	総括	5
III	会務の概況	6
IV	本部活動報告	9
	OpenEL 国際標準化委員会	10
V	事業本部活動報告	11
	運営本部	11
	教育事業本部	16
	技術本部	20
	ET事業本部	32
VI	支部活動報告	35
	北海道支部	35
	東北支部	35
	関東支部	40
	中部支部	43
	北陸支部	46
	近畿支部	47
	九州支部	51
	事業報告の附属明細書	55

I 法人の概況

1. 設立年月日 昭和 61 年 8 月 7 日

2. 定款に定める目的

本会は、組込みシステム(組込みソフトウェアを含めた組込みシステム技術をいう。以下同じ。)における応用技術に関する調査研究、標準化の推進、普及及び啓発等を行うことにより、組込みシステム技術の高度化及び効率化を図り、もって我が国の産業の健全な発展と国民生活の向上に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 組込みシステム応用技術に関する品質、生産性、信頼性、セキュリティ等に関する技術開発及び標準化の推進
- (2) 組込みシステム技術に関する人材育成、地域振興及び国際交流の推進
- (3) 組込みシステムに係る技術・環境・経営及び貿易・投資に関する調査研究並びに情報の提供
- (4) 組込みシステム技術などに関する内外関係機関との情報交流及び連携の推進
- (5) 組込みシステム応用技術の普及啓発
- (6) 本会の会員に対する福利厚生に関する事業の推進
- (7) その他本会の目的を達成するために必要な事業

4. 日本標準産業分類

G3912 組込みソフトウェア業

5. 会員の状況

平成 28 年 3 月 31 日現在

	当期末	前期末	前期末比増減
正会員	185 社	183 社	2 社
賛助会員	34 社	32 社	2 社
合計	219 社	215 社	4 社

6. 主たる事務所、支部の状況

(主たる事務所) 東京都中央区日本橋大伝馬町 6-7 住長第二ビル 3 階

(支部)

北海道支部 東京都中央区日本橋大伝馬町 6-7 住長第二ビル 3 階
東北支部 宮城県仙台市青葉区一番町 1-1-41 トライポットワークス(株)内
関東支部 東京都中央区日本橋大伝馬町 6-7 住長第二ビル 3 階
中部支部 愛知県名古屋市東区東桜 2-2-1 高岳パークビル 萩原電気(株)内
北陸支部 福井県福井市川合鷺塚町 61 字北稻田 10 (社)福井県情報システム工業会内
近畿支部 大阪府大阪市西区靱本町 1-8-4 (財)大阪科学技術センター内
九州支部 福岡県福岡市中央区天神 2-13-7 福岡平和ビル 4 階

7. 役員に関する事項

別紙のとおり

8. 職員に関する事項

平成 28 年 3 月 31 日現在

職員数	前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
5 名	+1 名	49.9 歳	8.7 年

9. 許認可に関する事項

特になし

<別紙>

一般社団法人 組込みシステム技術協会 役員・顧問
(平成 28 年 3 月 31 日現在)

(役職)	(支部)	(氏 名)	(常勤・非常勤)	(会社名等)
会長	関東	築田 稔	非常勤	(株)コア
副会長	関東	大橋 憲司	非常勤	(株)エンベックス
副会長	近畿	竹内 嘉一	非常勤	(株)日新システムズ
専務理事	(員外)	門田 浩	常勤	組込みシステム技術協会
理事	関東	塚田 英貴	非常勤	(株)エヌデーデー
理事	近畿	杉本 浩	非常勤	スキルインフォメーションズ(株)
理事	関東	漆原 憲博	非常勤	(株)ジエーエフピー
理事	北海道	中野 隆司	非常勤	(株)北斗電子
理事	東北	佐々木 賢一	非常勤	トライ・ワールクス(株)
理事	関東	長谷川 恵三	非常勤	(株)セントラル情報センター
理事	関東	佐野 勝大	非常勤	(株)エビキタス
理事	関東	渡辺 博之	非常勤	(株)エクスマーション
理事	関東	竹岡 尚三	非常勤	(株)アックス
理事	関東	中村 憲一	非常勤	アップ・ウインド・テクノロジー・インコーポ・レイテッド
理事	関東	廣田 豊	非常勤	TDI プロダクトソリューション(株)
理事	関東	碇山 真悟	非常勤	(株)マイクロテクノロジー
理事	関東	加賀谷 龍一	非常勤	(株)ビツツ
理事	関東	下山 到	非常勤	日本ノーベル(株)
理事	中部	脇田 周爾	非常勤	(株)ヴィツツ
理事	中部	青木 義彦	非常勤	(株)サンテック
理事	中部	萩原 義昭	非常勤	萩原電気(株)
理事	北陸	進藤 哲次	非常勤	(株)ネスティ
理事	近畿	松本 浩樹	非常勤	(株)コミュニケーション・テクノロジー
理事	近畿	塩路 直大	非常勤	(株)Bee
理事	近畿	橋本 知宙	非常勤	(株)ハネロン
理事	九州	光安 淳	非常勤	(株)エフェクト
理事	(員外)	鈴木 龍一	常勤	組込みシステム技術協会
理事	(員外)	原田 晃	非常勤	東京都立産業技術研究センター
理事	(員外)	清水 徹	非常勤	
監事	近畿	小幡 忠信	非常勤	アルカディ・システムズ(株)
監事	(員外)	小森谷 豊	非常勤	税理士法人レインボー
名誉顧問		種村 良平	非常勤	(株)コア
顧問		松尾 隆徳	非常勤	東洋電機(株)
技術顧問		崎詰 素之	非常勤	

理事 : 29 人 (内訳 : 会長 1 人、副会長 2 人、専務理事 1 人、理事 25 人)

監事 : 2 人 顧問 : 3 人

II 総括

平成 27 年度の国内景気は、海外経済の減速などがあるものの、緩やかな回復基調が続き企業収益や雇用環境に改善の動きが見られ、情報システム投資は堅調に推移した。

一方、組込みシステム業界においても、デジタル化の進展がもたらす技術革新、IoT のもたらすビジネス構造の変化により、新たなビジネス機会の創設が予想される状況となっている。

このような環境を反映し、当会の事業にもいくつかの変革をもたらす年となった。

最大のイベントである「組込み総合技術展 ET2015」は、「IoT Technology2015」との併設により前年比 10%を超える集客をもたらし、カンファレンスにおいても、いくつかのテクニカルセッションでは事前登録で満席となり、急遽会場を拡張するまでの盛況となった。

教育事業では、ETEC クラス 1 試験のリリースが実現し、今後の受験者層の広がりが見込める状況となった。また、ET ロボコンでは、今期より走行体が進化したこと、性能面、制御面での著しい高度化がみられた。

技術本部活動では、その主催する技術本部セミナーにおいて、前年を 2 割以上も上回る集客を得て充実した成果発表の場となり、組込み業界の変革時期を迎える、その技術動向への関心度の高さを実感することとなった。またロボット用ソフトウェアのプラットホーム「OpenEL」の国際標準化への活動が経済産業省の「戦略的国際標準化加速事業」に採択され委託事業としてスタートした。

今期より新設された「IoT 技術研究会」においても、組込みシステム産業からの視点で「IoT」を研究し、新たなビジネス分野の広がりを期待させるものとなっている。

平成 27 年度重点事業項目

1. 組込み技術の調査研究活動の推進と研究成果の情報発信
2. ET 展示会の拡充(IoT 展の新規立ち上げと地域産業振興)
3. 組込みソフトウェア技術者試験(ETEC)の普及拡大
4. 協業活動の強化推進
5. 国際化推進
6. 関連団体との情報交換及び連携事業推進
7. 会員の増強

III 会務の概況

1. 総会

社員総会(第 29 回)平成 27 年 6 月 18 日(木) ザ ランドマークスクエアトーキョーにて以下に示す議案が諮られ、承認可決された。

<決議事項>

- 第 1 号議案 平成 26 年度事業報告書(案)承認の件
- 第 2 号議案 平成 26 年度財務諸表(案)承認の件
- 第 3 号議案 平成 26 年度公益目的支出計画実施報告の件
- 第 4 号議案 定款改定承認の件
- 第 5 号議案 (第 4 号議案)に伴う入会金、会費規定の改定承認の件
- 第 6 号議案 入会促進キャンペーンの延長承認の件
- 第 7 号議案 東北支部年会費減免措置の延長承認の件
- 第 8 号議案 平成 27 年度、28 年度理事及び幹事選定の件

<報告事項>

- 1. 平成 27 年度、28 年度役員役職について
- 2. 平成 27 年度事業計画及び平成 27 年度収支予算書の件

理事会

平成 27 年 5 月 21 日から平成 28 年 3 月 17 日にわたり、計 5 回の理事会を開催した。

➤ 第 181 回理事会

平成 27 年 5 月 21 日(木) 於 東実年金会館 4 階大会議室

議事

第 1 号議案	平成 26 年度事業報告書(案)について	【審議】
第 2 号議案	平成 26 年度財務諸表(案)について	【審議】
第 3 号議案	平成 26 年度公益目的支出計画実施報告(案)	【審議】
第 4 号議案	定款変更ならびに定款変更に伴う入会金 会費規定、支部運営規定、委員会運営規定の変更	【協議】
第 5 号議案	入会促進キャンペーンの延長について	【審議】
第 6 号議案	東北支部年会費減免措置の延長について	【審議】
第 7 号議案	役員候補者の選任の件	【審議】
第 8 号議案	平成 27 年度本部委員会組織(案)	【協議】
第 9 号議案	平成 27 年度事業計画の件	【報告】
第 10 号議案	平成 27 年度事業予算の件	【報告】
第 11 号議案	支部長の承認	【審議】
第 12 号議案	委員会の新設	【審議】
第 13 号議案	新入会員の承認	【審議】
第 14 号議案	その他 ① 後援/協賛等受諾行事 ② 東実年金基金の解散に伴う本部事務局移転について	【報告】 【報告】

➤ 第 182 回理事会

平成 27 年 6 月 18 日(木) 於 ランドマークスクエアトーキョー
議事

第 1 号議案 社員総会資料一式の確認

【報告】

第 2 号議案 新入会員の承認

【審議】

➤ 第 183 回理事会

平成 27 年 9 月 17 日(木) 於 名古屋 名鉄グランドホテル 会議室
議事

第 1 号議案 各事業本部報告

【報告】

第 2 号議案 各支部活動報告

【報告】

第 3 号議案 本部事務局移転に関する状況報告

【報告】

第 4 号議案 平成 27 年度収支予算書の修正について

【審議】

第 5 号議案 新入会員の承認について

【審議】

第 6 号議案 都立産技研との協定書の締結について

【審議】

第 7 号議案 その他

【報告】

① 奥理事の退任の報告

【報告】

② JASA 新ヴィジョン検討会の設立

【報告】

③ 後援・協賛等受諾の報告

【報告】

④ 役員関連行事の日程表

【報告】

➤ 第 184 回理事会

平成 27 年 12 月 3 日(木) 於ロイヤルパークホテル 「瑠璃」の間

議事

第 1 号議案 各事業本部活動報告

【報告】

第 2 号議案 各支部活動報告

【報告】

第 3 号議案 IoT 推進コンソーシアム/IoT 推進ラボ 入会について

【審議】

第 4 号議案 新入会員企業の承認について

【審議】

第 5 号議案 その他

【報告】

① 平成 27 年度上期収支状況

【報告】

② 平成 28 年度事業計画及び予算計画の作成のお願い

【報告】

③ 後援・協賛等受諾報告

【報告】

④ 役員関連行事日程表

【報告】

➤ 第 185 回理事会

平成 28 年 3 月 17 日(木) 於 住長第二ビル 3 階会議室

議事

第 1 号議案 平成 27 年度決算見込み

【報告】

第 2 号議案 人材活用委員会(仮称)の新設について

【審議】

第 3 号議案 組織改定(案)について

【審議】

第 4 号議案 平成 28 年度予算(案)承認の件

【審議】

第 5 号議案 平成 28 年度事業計画(案)承認の件

【審議】

第 6 号議案 東北支部年会費について

【審議】

第 7 号議案 入会キャンペーンの延長について

【審議】

第 8 号議案 各事業本部活動報告

【報告】

第 9 号議案 各支部活動報告

【報告】

第 10 号議案 (一社)組込みマルチコアコンソーシアム入会

【審議】

第 11 号議案 新入会員の承認

【審議】

第 12 号議案 その他

【報告】

- ① 日本IT団体連盟の設立について
- ② 後援、協賛等の受諾報告
- ③ 役員関連行事日程表

2. 会員の変動状況

前年度期末会員数は、正会員183社、賛助会員32社の合計215社であった。期中ににおいて、正会員15社の入会があったが、退会が正会員13社、賛助会員2社の入会があつたため、本年度期末会員数は、正会員社185社、賛助会員34社の合計219社となつた。

新入会員

- ① TISソリューションリンク(株) (正会員／関東)
- ② リネオソリューションズ(株) (正会員／関東)
- ③ パナソニック(株) 人材開発カンパニー (賛助会員)
- ④ STマイクロエレクトロニクス(株) (正会員／関東)
- ⑤ 第一精工(株) (正会員／関東)
- ⑥ (株)金沢エンジニアリングシステムズ (正会員／関東)
- ⑦ バックス情報システム(株) (正会員／東北)
- ⑧ 匠ソリューションズ(株) (正会員／東北)
- ⑨ データテクノロジー(株) (正会員／関東)
- ⑩ (株)シントーク (正会員／関東)
- ⑪ アイ サイナップ(株) (正会員／関東)
- ⑫ ベクターソフトウェアジャパン (正会員／関東)
- ⑬ (株)ニッキ (正会員／関東)
- ⑭ (株)ウォンツ (正会員／中部)
- ⑮ (株)アイテック (正会員／関東)
- ⑯ (株)ロボテック (正会員／関東)
- ⑰ 星 光行 (個人会員)

IV 本部活動報告

平成 27 年度事業の推進は下表の本部組織にて行った。

平成 27 年度 JASA 事業組織表

事業本部名	委員会/研究会名	WG名	公益支出事業
運営本部	総務委員会		事業番号1
	広報委員会	機関誌発行WG HP管理WG	
	国際委員会		
	協業推進委員会		
教育事業本部	ETEC企画委員会	問題作成WG	事業番号2
	研修委員会		
	ETロボコン実行委員会	地区実行委員会	
技術本部	安全性向上委員会	安全仕様化WG	事業番号4
		ロボット安全研究会	
		情報セキュリティ研究会	
	技術高度化委員会	OSSライセンスWG	事業番号3
		状態遷移設計研究会	
		IoT技術研究会	
ET事業本部	応用技術調査委員会	技術セミナー委員会 プラットホーム研究会	事業番号5
	ハードウェア委員会	ものづくり技術者育成	事業番号3
		新技術調査研究WG	
	ET実行委員会		
	ETWest実行委員会		

<参考>公益支出事業

- 事業番号 1 組込み技術を普及するための海外及び国内調査研究
- 事業番号 2 組込み技術を担う技術者育成のための能力試験およびセミナーの実施
- 事業番号 3 開発高度化事業
- 事業番号 4 安全・安心関連事業
- 事業番号 5 技術啓発・人材育成事業

また、経済産業省より「平成 27 年度政府戦略分野に係る国際標準化活動」に関する事業を委託し実施した。

OpenEL 国際標準化委員会

1. 活動概要

今後市場の拡大が見込まれるロボット産業においては、国内外の多数のメーカのデバイスやセンサー類を組み合わせて開発が進められているが、それらのデバイスの制御方法は標準化されていないため、ソフトウェア開発における生産性や保守性に大きなマイナス要因となっている。

OpenEL はこれらデバイスの制御方法を抽象化し、アプリケーション開発者はデバイス固有の制御に囚われることなく開発を進めることできる仕組みとして標準化活動を提案していく。標準化の提案は産業界で国際的に影響力を持つ OMG(*1)において進めると同時に ISO 国際標準を目指して提案活動をする。

(*1)OMG(Object Management Group)米国を拠点とするソフトウェアの国際的標準化団体

2. 活動経緯

会議

WG を 6 回、委員会を 10 回開催し、OMG 技術会議に 4 回、ISO 会議に 3 回、ISO Web 会議に 11 回参加した。

3. 活動成果

・ET2015

RT-3「ロボット技術における国際標準化の動向 ISO および OMG における最新情報」
事前登録は満席(180 名)、当日の聴講者は、92 名

また、展示会場内 JASA ブースにおいて、講演とデモを実施した。

「ロボット技術における国際標準化の動向」(アップウインドテクノロジー 中村憲一)

聴講者:11 月 18 日: 7 名、11 月 19 日: 10 名、11 月 20 日: 18 名

・計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2015)

「ロボット向けハードウェア抽象化レイヤーOpenEL 2.0」と題した論文発表を行った。

・OMG HAL4RT FTF の活動開始

12 月の OMG 技術会議にて、JASA から提出した HAL4RT(Hardware Abstraction Layer for Robot Technology)の RFP(仕様提案依頼)に対する三次提案文書がアーキテクチャ委員会で承認された。また、OMG ドメイン技術委員会にて HAL4RT FTF(Finalization Task Force)の設立が承認され、中村氏(アップウインドテクノロジー)が議長に就任した。さらに、1 月に OMG HAL4RT 仕様書の Beta1 版が正式に発行され、OMG のホームページで一般に公開された。

・ISO 国際規格への追加

2016 年 1 月より、ISO/TC184/SC2/WG10 が ISO/TC299/WG6 に改組された。WG6 が策定中の国際規格「サービスロボットのモジュラリティ」のハードウェア抽象化レイヤーに関する章の ISO 原案に JASA が策定した OMG HAL4RT の要求事項が取り込まれた。

V事業本部活動報告

運営本部

総務委員会

- 平成 27 年度 活動なし

広報委員会

1. 機関誌の発行

協会機関誌「Bulletin JASA」を定期発行(年 4 回)した。協会・業界広報及び技術情報誌としての情報発信機能を強化し、併せて会員連携の促進と新規会員勧誘の機能を具備した有効なメディアとして記事内容の拡充を図り、会員企業はじめ関連業界や教育機関、また主催イベント等にて広く配布・展開した。

Bulletin JASA Vol.54 ET West 企画号(会場配布) 6 月発行

- ET West 2015 プレビュー・出展社紹介
- 会員会社訪問
- 技術本部成果発表会報告
- 新任支部長ご挨拶、国際だより、新入会員企業紹介 他

Bulletin JASA Vol.55(人材育成・教育企画号) 9 月発行

- 若手社員による座談会企画「なぜ組込み業界を目指したか」
- ET ロボコンで競うバランスの取れた開発力
- 新入社員に求めるスキル知識(調査報告)
- OpenEL の活動状況
- 海外視察報告、企業見学会報告、ET セミナー報告、新入会員紹介 他

Bulletin JASA Vol.56(ET/IoT 特集企画号) 11 月発行

- ET・IoT Technology2015 プレビュー • 出展会員企業紹介
- 会員会社訪問 2 社
- IoT 技術研究会活動状況
- JASA と都産技研との協定締結、新入会員紹介 他

Bulletin JASA Vol.57(新年号) 1 月発行

- 業界 2016 年の見通し—景気動向アンケートより—
- 特別寄稿「コンピューティング革命としてのクラウドニクス」
- ET/IoT Technology 2015 JASA 主催イベント報告 他

2. 協会広報

- ① キャラクター(クミコ・ミライ)活用による、JASA 紹介用「協会パンフレット」を作成し、本部・支部イベント等で配布・紹介。
また、エンジニア向け Line スタンプ、記念ノベルティ等に活用した。
- ② 報道機関向けプレス発表及び媒体活用による協会広報を進めた。
ET・IoT 同時開催、Award 受賞決定、ETWest、ET ロボコン等

3. 業界広報等

Web 媒体との連携により、第 1 回から 15 回に渡り、組込みシステム業界の最新動向などを連載した。

日経テクノロジー online 特集「組込み業界では今、何が起きているのか」

～組込みシステムの専門家集団からみた、過去・現在・未来～

- ①ラズパイで OpenEL を動かしてみた[2015 年 4 月 3 日]
- ②モデリングは芸術、“アートな状態遷移表設計”的すすめ[4 月 17 日]
- ③システムの故障原因、第三者の立場でどう突き止めるか?[5 月 8 日]
- ④状態遷移表によるレガシーコードの蘇生術[5 月 22 日]
- ⑤日本企業の開発力向上へ、ET ロボコンの挑戦[6 月 5 日]
- ⑥富士ゼロックスの ET ロボコン活動と、若手技術者育成の効果[6 月 19 日]
- ⑦組み込み技術者、足りてますか?[7 月 3 日]
- ⑧「クラウド」の定義、知っていますか?[7 月 17 日]
- ⑨進化する IoT、「集中型」から「分散協調型」へ[7 月 31 日]
- ⑩ハードウェア設計と標準化、規制とライセンスの壁[8 月 21 日]
- ⑪「要求仕様問題」と次の課題[9 月 4 日]
- ⑫こんなに使える SysML[9 月 18 日]
- ⑬「SPICE」によるハードウェアモデリング[10 月 2 日]
- ⑭OpenEL で ET ロボコンにチャレンジ[10 月 16 日]
- ⑮ロボットの安全～ISO 26262 の次にくるのは?～[10 月 30 日]

また、IPA セキュリティコンクールにて JASA 優秀賞の選考を行い、3 点に対し JASA 賞を贈呈した。(崎詰顧問、委員 2 名により選考)

4. 委員会の開催(技術セミナーWG と同時開催)

4 月 7 日

業界・協会紹介用動画の完成品視聴と動画の配布方法検討。Youtube にアップ

27 年度予算及び事業計画について検討・確認

日経テクノロジーオンライン記事執筆依頼と確認

5 月 26 日

機関誌 Bulletin JASA Vol.54 内容・記事確認

6 月 29 日

座談会企画 若手技術者(7 名を選出)

開催概要、議題など内容確認 参加者事前情報アンケート実施

機関誌 BulletinJASA Vol.55 コンテンツ選定・確認

キャラクター活用 スタンプ・グッズ等企画

7 月 29 日

座談会企画 当日運営要領及び題材等確認

BulletinJASA Vol.55 コンテンツ確認と原稿依頼、会社訪問取材(8 月 4 日)確認

キャラクター活用 ET 配布グッズ制作検討

9 月 10 日

座談会報告

BulletinJASA Vol.55 コンテンツ確認

BulletinJASA Vol.56 コンテンツ予定

キャラクター活用 LINE スタンプ作製 40 カット制作

ET 配布グッズ制作(マグネット等)

協会案内増刷&校正

11月4日

JASA キャラクター活用による協会広報について検討

Bulletin JASA Vol.56 編集、記事確認

Bulletin JASA Vol.57 コンテンツ企画検討、寄稿依頼等

12月27日

来年度事業計画及び予算案策定

機関誌による設立30周年記念号の発刊計画

Bulletin JASA Vol.57 コンテンツ確認

1月21日

30周年記念号内容等について検討

3月2日

30周年記念号コンテンツ及び特別企画(座談会など)検討

次年度事業計画案の確認

国際委員会

1. 国際委員会の定期開催

・委員会を隔月に計6回開催。

*委員会では、主に国際委員会に対するニーズの調査から、グローバルフォーラムの企画・実行及び、海外視察の企画、海外協会とのMOU締結についての模索を行った。

*識者を委員会に招き、委員会としての課題を探るため、「委員会スピーチ」を行った。

・委員会の内容

(1) 第35回国際委員会 (4月23日)

主な議題:平成27年度事業計画

スピーチ:「HIDA事業概要」

一般財団法人 海外産業人材育成協会 神田久史/渡辺智恵 氏

(2) 第36回国際委員会 (6月25日)

主な議題:グローバルフォーラムの企画検討と海外協会との活動の検討

スピーチ:「中国におけるIT・ソフトウェア ビジネスの法的諸問題」

西村あさひ法律事務所 宮下佳之弁護士/藤本豪弁護士

(3) 第37回国際委員会 (8月20日)

主な議題:グローバルフォーラムの企画検討と海外協会との活動の検討

スピーチ:「ベトナムにおける組込みビジネスと人材育成～FPTの事例を中心に～」

FPTジャパン株式会社 社長室 室長 高橋史氏

(4) 第38回国際委員会 (10月19日)

主な議題:グローバルフォーラムの詳細検討と海外協会との活動の検討

スピーチ:「日中連携で中国IT人材の育成と活用」

成都ウイナーソフト株式会社 総裁兼CEO 周密 氏

(5) 第39回国際委員会 (12月22日)

主な議題:グローバルフォーラム結果報告と平成28年度事業計画検討

スピーチ:「英國貿易投資総省 UK Trade & Investment のサービス」

英國貿易投資総省 貿易・対英投資部 メーソン・コリン氏

(6) 第 40 回国際委員会 (2 月 17 日)
主な議題: 平成 28 年度事業計画検討及び海外視察について
スピーチ: なし

2. 「JASA グローバルフォーラム 2015」の開催

- ・開催日: 平成 27 年 11 月 19 日 (木) 13:15~16:35
- ・会場: パシフィコ横浜 アネックスホール 2F [F205]
- ・参加者数: 75 名 (講演者、関係者含む)
- ・テーマ: 人材活用と採用
- ・目的: 海外協会との交流促進と、国内企業へのグローバル情報の提供
- ・プログラム

【基調講演】

- ・「多様性のアジアとビジネスチャンス」
池部亮氏/日本貿易振興機構 海外調査部アジア大洋州課 課長

【HIDA 紹介】

- ・「HIDA の海外産業人材育成事業」
渡辺 智恵氏/一般財団法人 海外産業人材育成協会 (HIDA)
研修業務部低炭素化支援グループ長補佐

講演 1【中国】

- ・「日中連携で中国 IT 人材の育成と活用」
周 密氏/成都ウイナーソフト株式会社 総裁兼 CEO

講演 2【ベトナム】

- ・「海外技術者(ベトナム)との協働(パートナーシップ)について」
横浜 和敏氏/国際委員会 委員

講演 3【ミャンマー】

- ・「ミャンマーバイリンガル IT 技術者の育成と、日本企業の国際化の支援」
岩永 智之氏/グローバルイノベーションコンサルティング(株) 代表取締役社長

【パネルディスカッション】

モデレータ: 廣田 豊 (JASA 国際委員長)

3. JASA ホームページ「JASA 国際だより」、機関誌「Bulletin JASA」への投稿

会員企業及び JASA 外部に対する情報提供と広報活動への貢献のため、委員会から情報発信を行った。

- ・JASA ホームページ「JASA 国際だより」
 - (1) 「グローバル化と JASA への期待に関するアンケート調査結果 2015」
 - (2) 「JASA グローバルフォーラム 2015」開催報告
- ・機関誌 Bulletin JASA「JASA 国際だより」
 - (1) 「JASA 国際委員会活動状況報告」(vol.54)
 - (2) 「JASA 国際委員会活動状況報告」(vol.55)
 - (3) 「JASA グローバルフォーラム 2015」開催報告 (vol.57)

4. 海外団体視察受け入れ

- (1) 一般社団法人日・タイ経済協力協会 (JTECS) 視察報告

日 時: 2016 年 1 月 27 日 (木) 14:00~16:30

受 入 先: TDI プロダクトソリューションズ 橋本オフィス

視 察 者: 視察団 14 名 事務局 2 名 通訳 1 名

視察内容: 委員長挨拶

新入社員研修の説明 (大津氏 J-TEA 専務理事/国際委員)

TDIPS 企業紹介 (廣田氏 TDIPS 社長/国際委員会委員長)
TDIPS 研究ラボ視察

(2) VINASA 来訪について

日 時:2016 年 2 月 23 日(火)10:00~12:15
受入先:株式会社メタテクノ
視察団参加者:10 名
視察プログラム:会社案内(業務概要)
ベトナム企業様とのディスカッション

協業推進委員会

1. 札幌経営層セミナー

中部支部の要請に基づき、札幌の経営層とのビジネスマッチングを開催した。

イベント名:業界動向セミナー 車載とその未来

日時・場所:2015 年 7 月 1 日(水)14:00/18:00 札幌グランドホテル 「青雲」

参加者数:札幌経営層 39 名(30 社)、中部支部 5 名(5 社)

講 演:「過去の延長線上にはない自動車の未来」田中栄氏(アクアビット代表取締役)

パネルディスカッション:「自動車関連開発ビジネスの特徴と中小組込み企業の役割」
モデレータ:脇田中部支部長、パネリスト:中部支部 5 名、講演者(田中栄氏)

交流会:

想定よりも多くの経営層が参加され、中部支部会員とのコミュニケーションが活発に図られ、実際の協業に向けた 2 社間交渉が続いている。

アンケート結果: 札幌側経営層のアンケートによると、業界の将来展望という点が参加の動機付けになっており(72%)、後援が役に立った(90%)という評価をいただいた。

2. アライアンスビジネス交流会

アプリ、プロダクト販路拡大、開発支援等を目的としたビジネスマッチングイベントを CSAJ と合同開催で年 1 回開催し、6 回目を迎えた。

日時・場所:2015 年 11 月 19 日(木)13:00/17:40 (ET2015 内)会議センター 3 階

特別講演:「デジタルビジネスを加速する IoT」佐野勝大氏(ユビキタス代表取締役)

プレゼン企業:JASA 会員 2 社

・アイサイナップ株式会社「組込み通信ユニットによる IoT 製品の利便性」

・株式会社ジェーエフピー「論理整合性のある要求仕様記述ツール”SLP”のご紹介」

3. 九州セミナー2016

九州地区での JASA のプレゼンスを高め、地域と JASA、会員の関係性を強化することを目的に、九州地域の需要に合わせたセミナーを九州支部と共同で企画し、開催した。

JASA 主催を意識し、価値を判断していただくために、今回よりセミナー自体を有料として運営した。

満席の参加者を得て、交流会も盛況であった。

日時・場所:2016 年 2 月 23 日(火)14:00/19:00 JR 博多シティ 10 階会議室

会 費:会員 500 円/人、一般 1,000 円/人

動員数:参加者 64 名 関係者・来賓・講演者を含め、計 78 名

講演概要:

- ・「情報政策について」 中村誠氏(九州経済産業局 情報政策課)
- ・「IoT ビジネス最前線」 佐野勝大氏(ユビキタス代表取締役・JASA 理事)
- ・「JASA の活動と ET ロボコンの紹介」 光安淳氏(JASA 理事・九州支部長)
- ・「IoT 時代における組込みシステム」 坂村健氏(東京大学大学院 教授)

アンケート結果:

全体に満足度が非常に高く、業界の最新技術とその事業性の講演を期待されている

教育事業本部

ETEC 企画委員会

1. クラス 1 配信準備

① 第 1 版リリース

2014 年度第 4 四半期に行った β 試験(検証試験)の結果を元に、第 1 四半期に試験問題の正当性・評価の妥当性を確認の上、9 月に初版をリリースした。

② 続版準備

続版に向け、第 3 四半期に試験問題を精査し、第 4 四半期に初版とのレベルの均等性を図った。

2016 年度第 1 四半期に属版がリリースされる。

2. 試験配信状況と対処方針

① クラス 2

2016 年度は前年度比 70% と低迷した。

学生市場が急激に伸びたものの、主要の法人市場が前年度比 34% に落ち込んだことが大きな要因で、特に自動車市場の受験の減少が大きく左右されていると判断する。

クラス 2 試験は、合否判定ではなく、知識レベル評価を目的とした試験であることから、2016 年度以降は、会員を含めた法人市場に向け、『人材管理・育成の活用ツール』としての ETEC 紹介の徹底を図る。具体的には積極利用している企業の導入事例を記事化して周知を行う

② クラス 1

試験準備の都合で運用開始が 4 ヶ月出遅れ、下期半年、2/3 の運用となった。それもあり、年度受験数予測は 21% と低迷した。

収益面では、想定した(β 試験協力者の)無料受験が少なく、50% を確保した。

次年度以降、受験対象者(クラス 2 500 点以上)に積極的に周知を行う。

3. 周知活動

① ET West2015(2015 年 6 月 10 日・11 日)

「業界研究セミナー」6 月 11 日午前開催、35 名参加。

② ET2015(2015 年 11 月 18~20 日)

「業界研究セミナー」11 月 18 日午後開催、42 名参加。

③ 学校法人

学校法人を販路とした 2 社を介した、ETEC 周知とバウチャー販売活動を通年で展開。学生向けバウチャーは、前年度比 230% であった。

④ 一般周知

- ・「資格の教室」(リクルート刊)情報記事を無料掲載
- ・ETEC 関連書籍とタイアップキャンペーン

研修委員会

1. 学校法人向け Bulletin JASA 送付

学校法人との接点を維持・強化するため、全国 200 校に年 4 回、Bulletin JASA の送付を行った。

2. 業界研究セミナー

若年層ならびにその指導者に業界を認知させ、進路としての認識を持たせることを目的に開催した。

① ET West2015(2015 年 6 月 10 日・11 日)

6 月 11 日午前開催、35 名参加。

会員企業、日新システムズ田崎詳二氏による、業界概要ならびに採用後の教育体制を説明。続けて企業が求めるスキルレベル調査結果を講演した。(同時に ETEC 利用勧奨も行った。)

② ET 2015(2015 年 11 月 18~20 日)

11 月 18 日午後開催。42 名参加。

会員企業、クレスコ田島直孝氏から、開発事例と新卒技術者の指導体制を説明。ETWest 同様、企業が求めるスキルレベル調査結果を講演した。(同時に ETEC 利用勧奨も行った。)

3. 学校講師向け C 言語教育

学校法人より要望が高い、講師向けの実践型 C 言語講座を組込みシステム開発の紹介も交え、開催した。

日時・場所:2015 年 8 月 27 日・28 日 9:00/17:00 東実年金会館

研修内容 :C 言語開発ドリル、組込みシステム開発単体テストの体験

今回は研修内容との検討に時間を要し、案内から開催までの時間がなく、参加者は 10 名と伸び悩んだ。

しかし、受講者からは好評であり、学校と企業が求めるレベルの差を体感され、単体テストは大いに参考になったというコメントをいただいた。

4. 産学連携事業

金沢工業大学(KIT)・北陸先端科学技術大学院大学(JAIST)共同教育推進事業のうち、「評価項目検討会」に 2012 年より参加している。

日時・場所:2015 年 10 月 31 日(土)9:30/11:30 金沢工業大学

出席者:宮下光明氏(研修委員会副委員長)、坂上真市氏(研修委員)

»シンポジウム

日時:2015 年 12 月 16 日(水)13:00/18:00

場 所:金沢工業大学(金沢キャンパス・虎ノ門キャンパス中継)

出席者:評価委員会メンバー(築田会長、門田専務理事、鈴木事務局長)

評価委員会メンバーが金沢キャンパス側で履修カリキュラムと成果発表の評価を行った。

中継側の虎ノ門キャンパスでは、組込みシステム開発業界の円滑な就職に向け、両校の就職支援担当者と JASA 会員企業(参加 11 社)の交流会を開催した。

5. 新卒採用に関する調査

9 月に組込みシステム開発事業における新卒者に求める技術知識と人物像を調査し、過去の同調査結果との差異を含め、報告書を作成した。

発表:ET2015(2015 年 11 月 18~20 日)の JASA ブースで開催したフリーセッションの場にて

資料:2016 年度より、希望される学校法人・企業に配布予定。

6. 実践型教育カリキュラムの策定

文部科学省の指導により、主に専門学校の産学連携の実践教育が進んでいる中、業界団体として実践指導のガイドラインとしてモデル・カリキュラムを作成することにした。

第 1 版としては、2008 年度に企業の新卒研修用に開発した実践教育カリキュラムを元に、学校におけるカリキュラム案を作成した。

2016 年度以降、学校への開示、ならびに時代に合わせて改変していく。

ET ロボコン実行委員会

1. 参加チーム数

346 チームのエントリーがあった(前年度比 103%)。その内訳は、デベロッパー部門 322 チーム(前年度比 107%) イノベータ部門 24 チーム(前年度比 71%)

2. 技術教育(第 1 四半期)

九州地区(5/16)を皮切りに第 1 四半期に各地区 2 回の技術教育を実施した。

参加者の利便性を考量して、2 つ以上の会場で開催する地区も多い。北海道(札幌・函館)、北関東(長岡・行田)、中四国(福山・広島)

3. 試走会(第 2 四半期)

第 2 四半期(地区大会前まで)全国 12 地域で 2 回ずつ開催した。

4. 地区大会(9 月・10 月)

9/5~10/11 の間に、全 12 地区の地区大会が無事終了した。

本年度は走行体の移行期となり、EV3 が導入された。従前の NXT に比べ、

性能が約 6 倍、フラッシュ 256 倍、RAM1024 倍となり、より高度な制御が可能となった。

地区	地区大会開催日	開催地
北海道	10 月 11 日	公立はこだて未来大学(函館市)
東北	9 月 12 日	いわて県民情報交流センター「アイーナ」(盛岡市)
北関東	10 月 11 日	ものづくり大学(行田市)
東京	9 月 22・23 日	早稲田大学西早稲田キャンパス(新宿区)
南関東	9 月 19・20 日	神奈川工科大学(厚木市)
東海	9 月 26・27 日	株デンソーワークス 5 号館イベントホール(刈谷市)
北陸	9 月 5 日	金沢工業大学扇が丘キャンパス(野々市市)
関西	10 月 3・4 日	京都コンピュータ学院 京都駅前校
中四国	9 月 20 日	福山大学宮地茂記念館(福山市)
九州北	9 月 19・20 日	九州産業大学(福岡市)
九州南	9 月 26 日	鹿児島工業高等専門学校(霧島市)
沖縄	10 月 3 日	沖縄県産業支援センター(那覇市)

5. チャンピオンシップ大会(11 月)

ET/IoT2015 の併設イベントとして、地区大会の代表者を集めたチャンピオンシップ大会を 11 月 18・19 日に開催。

全 42 チームが競った。

[内訳]デベロッパー部門: プライマリークラス 21 チーム、アドバンストクラス 12 チーム、イノベータ部門 9 チーム

また、本大会開催にあたり、全国から応援も含め、69 名の実行委員が運営にあたった。

次年度以降の参加者拡大に向けたプロモーション活動として、パンフレットにモデル図の概要を掲載、またチャンピオンシップ大会会場に ET ロボコン参加相談コーナーを設置した。

チャンピオンシップ大会の結果は以下の通り。

デベロッパー部門プライマリークラス

優 勝	ガラナエクスプレス	北 海 道	リコーITソリューションズ(株)ES 事業部札幌事業所
準 優 勝	走れ亮君 2 号	東 海	個人
第 3 位	delias	東 京	横河電機(株)

デベロッパー部門アドバンストクラス

優 勝	NiASET	九 州 北	長崎総合科学大学
準 優 勝	YoungMaster	東 海	SCSK(株)車載システム事業本部
第 3 位	からつ風産学隊 2015	北 関 東	群馬大学&両毛システムズ

イノベーター部門

優 勝	FUJIWING	東 海	富士機械製造(株)
準 優 勝	g-ice	北 関 東	群馬工業高等専門学校電子情報工学科
第 3 位	ほぼ組 T	東 京	(株)日立製作所研究開発グループ

TOPPERS 賞	ごばりき 15'	東 京	日立オートモティブシステムズ(株)佐和事業所
-----------	----------	-----	------------------------

IPA 賞	ガラナエクスプレス	北 海 道	リコーITソリューションズ(株)ES 事業部札幌事業所
-------	-----------	-------	-----------------------------

若 手 奨 励 賞	NiASET	九 州 北	長崎総合科学大学
-----------	--------	-------	----------

6. 全国企画会議(12月)

12月19・20日、三浦(ホテルマホロバマインズ)で全国企画会議を実施。

2015年度の反省と報告、2016年度の企画会議を目的に、全国12地区から49名が出席した(JASA:門田専務理事、光安九州支部長が出席)。

初心者を対象とした「プライマリークラス」に上級者(数年参加)のエントリーが目立つ。また、イノベーター部門の参加者がテーマ決めに時間がかかっていることなどが提起された。

また、2016年度から走行体がEV3のみになることから、EV3の光センサーによるカラーを読み取る難所の導入が決定された。

7. 本部実行委員会(1月)

1月13日にJASA会議室にて開催。

コースレイアウトとETロボコン2016大会の大筋が決定。

8. 記者発表(2月)

2月15日、ふくい南青山291会場にてETロボコン2016大会をプレスリリースした。発表の概要是以下の通り

- 走行体はEV3のみとなる。なおアドバンストクラス用に派生型の“Hack EV”を開発
- コースレイアウトを大きく変更し、完全に左右に分かれるコースになった。
- プライマリークラスの参加条件に「モデル初心者」あるいは「過去出場3回未満」という制限を設けた。
- イノベーター部門のテーマを設定。【15年後にあると便利な新しいシステム】

9. ETロボコン2016実施説明会(3月)

全12地区で実施説明会を開催。地理的な都合で複数回開催した地区もあった。

北関東(埼玉・群馬・栃木・新潟)、中四国(福山・広島)

技術本部

技術本部は、各位委員会の統括業務として、予算管理、成果発表、共通課題の運営を主な業務としている。

OpenEL の活動は、国際標準化活動として経産省から委託事業に採択され、次年度も継続となっている。これを機に技術本部とは独立した委員会として運営されている。なお、OpenEL に発したロボット関係の取り組みは、安全性向上委員会では生活支援ロボットの安全規格の調査研究に発展し、活発な活動となっている。また安全性向上委員会は前年度に続き IPA と共同研究を行っているが、このような外部との連携は状態遷移研究会も名古屋大学と行っている。

他に関しては例年通りである。以下にその概要を述べる。

1. 予算

予算はほぼ例年通りの規模で計画され、おおむね計画通りの実績を得た

2. 技術本部会議

技術本部の活動を統括する場として、年間 4 回本部会議の開催と次年度事業計画とりまとめ、並びに予算案のヒアリングを実施した

- [第 1 回] 5 月 20 日(水) 10:45～12:00
- [第 2 回] 9 月 9 日(水) 15:00～17:30
- [第 3 回] 技術本部会議 12 月 2 日(水) 15:00～17:30 JASA 会議室
- 平成 28 年度 事業計画・予算ヒアリング 2016 年 2 月 4 日(木)
- [第 4 回] 技術本部会議 3 月 16 日(水) 15:00～17:30 JASA 会議室

3. 成果発表

(1) 技術本部成果発表会

開催日 :5 月 20 日(水) 13:30～17:20
会 場 :東実年金会館 4 階会議室

(2) ET West 2015 併催セミナー JASA 技術本部セミナー

テーマの活動を発表した。
開催日 :6 月 11 日(木) 11:10～13:00
会 場 :グランフロント大阪 コングレコンベンションセンター

(3) ET/IoT Technology 2015 併催セミナー JASA 技術本部セミナー

今回で第 6 回目となる技術本部セミナーを実施した。
開催日 : 11 月 18 日(水) 13:30～16:50
会 場 : パシフィコ横浜 アネックスホール 2 階 [F201]

安全性向上委員会

1. 活動概要

本委員会は、昨年から引き続き、機能安全、情報セキュリティ、要求仕様に関して、技術動向の調査・研究を行った。

安全仕様化WG (SSQ-WG)、情報セキュリティ研究会 (JESEC-WG)、ロボット安全研究会 (RDSS-WG) の 3WG に分かれて、テーマを絞って活動した。

委員会全体の活動方針は、下記。

1. SSQ (Safty, Security、Quality) の課題・あるべき姿をメンバーで討議・研究していく。
2. 大学、研究機構、IPA など外部組織・団体との連携を積極的に推進する。
3. SSQ をコア技術として、オープンイノベーションの可能性を探る。

2. 活動詳細

- 1) 委員会とSSQ-WG の会議は、下記。いずれも 14:00～17:30
 - 4/24 @ 東実年金会館 3 階
 - 5/15 @ 東実年金会館 3 階
 - 6/19 @ 東実年金会館 3 階
 - 7/17 @ 第一精工様(町田)
 - 8/21 @ 日本プロセス様本社(浜松町)
 - 9/18、19 (合宿) @ マホロバ・マイinz三浦(三浦海岸)
 - 10/16 (ロボット安全のテーマを中心に) @ 東実年金会館 3 階
前半:公開セミナー(長岡技術科学大学の木村先生の講演)。後半:委員会。
 - 11/18～20 (ET2015 期間中) @ 横浜パシフィコ
 - 12/18 @ 第一精工様(町田)
 - 1/22 @ 第一精工様(町田)
 - 2/19 @ 日本プロセス様本社
 - 3/18 @ JASA本部会議室(小伝馬町)
- 2) JESEC-WG と RDSS-WG の会議は、下記。いずれも 15:00～19:00
 - 4/9 第一回開催、以後、合宿も含めて計 14 回開催。
JESEC-WG は、情報セキュリティ事故の事例研究、車のセキュリティに関する技術動向の議論等を実施。
 - RDSS-WG は、ISO13482 の輪講、首都大学東京の開発した MINAMO のリスク分析 (ISO13482 ベース) を実施。

3. 活動成果

H27 年度は、下記 3 点が大きな成果として挙げられる。

- 1) H26 年度後半から、議論が活発になってきたロボット安全のテーマと、昨今、課題が広く認識されるようになった情報セキュリティのテーマについても、正式にWGを立上げた。その結果、議論が活発化し、参加企業、参加人員が増えた。
- 2) 本委員会と PF 研究会がつなぎ役となって、都立産技研と連携協定が締結された。

H28 年度は、活動の相乗効果が期待される。

- 3) IPAと連携し、社会インフラシステムの障害原因の背景にある要求仕様のミスマッチについて、意見交換を行い、初めて、JASA技術成果発表会に参加され、さらに合同合宿も始めて実施した。

4. 今後の予定

方針としては、下記 2 点を予定

- 1) H28 年度は、前年度から立ち上げた 3WG の活動を軌道に乗せていく。
- 2) IPA、産技研、首都大学東京等、外部団体との連携を拡げてJASA特有技術を育てていく。
各WG日程は、下記の通り。
 - ・委員会と SSQ-WG は、原則第 3 金曜日に開催。場所は、JASA 以外に産技研、会員企業会議室も利用。
 - IPA、会津大と連携。STAMP と安全誘導型設計フレームについて議論を深める。
 - ・JESEC-WG は、原則第 2 火曜日に開催。場所は、JASA 以外に産技研を利用。
 - 7 月と 2 月に、情報セキュリティの中企業啓発セミナーを産技研と共に予定。
 - CMSiS の普及を図る。セミナーWG とも連携していく。
 - RDSS-WG は、原則第 4 月曜日に開催。場所は JASA 以外に首都大学の利用も検討。
4 月～6 月は、IPA から講師を呼んで STAMP 勉強会を予定(90 分 x 3 回)その後、STAMP による MINAMO(首都大学東京が開発中の水上移動ロボット)の安全解析を実施予定。
 - ・合宿を 9/16,17 に計画。委員会内親睦と技術の深堀を図る。

技術高度化委員会

OSS 活用 WG

1. 活動概要

OSS(オープンソースソフトウェア)を日本の組み込み分野で安心して使用できるように議論と活動を行っている。

国内外のロボット用 OSS,自動運転 OSS の発展、活用にも注力している。
なお、当委員会は Cyber Physical Embedded 部会(OSS コンソーシアム組込み部会が名称変更。)と共同で活動している。

2. 活動経緯

2015 年 4 月 28 日 開催場所:チャンスラボ株式会社

新年度のテーマ案として、ロボット用オープンソースに関して、議論を行った

2015 年 6 月 16 日 開催場所:チャンスラボ株式会社

機械学習、ドローンなどが候補として上がった。

2015 年 8 月 18 日 開催場所:株式会社 デジタル・ヒュージ・テクノロジー

- ・ロボットをテーマとした無料セミナーの開催について議論
- ・新しい対象として、機械学習ソフトウェアを決めた
- ・OSS の品質基準を作れるか、という議論
- ・OSS のテストにかけるコスト(品質管理のコスト)について議論
- ・開発の段階ごとに、適用できる OSS があるのでは?という議論

2015 年 10 月 20 日 開催場所:株式会社 デジタル・ヒュージ・テクノロジー

・ロボットをテーマとした無料セミナー開催について打ち合わせ

2015 年 12 月 15 日 開催場所:JASA 会議室

- OSS を採用したソフトウェアの受け入れ体制について議論
OSS の品質を測るために、Fuzz テストを適用するはどうか?
- OSS 採用ソフトウェアのバグの責任問題について議論
- ドローン制御用 OSS "Drone code"などについて議論

2016 年 2 月 16 日 開催場所:JASA 会議室

- OSS を採用したソフトウェアの受け入れ体制について議論
- OSS の品質をどう捉えるべきか、継続的に議論中
Fuzz テストの効果について議論
- IoT の無料で使用できるサービスの紹介
- 機械学習の組込み応用について議論
- OSS コンソーシアム CPE 部会内の女子部に新リーダーが就任

3. 活動成果

委員会メンバにより、川上企業(いわゆる中小のソフトウェア開発会社)の OSS 使用の意識調査を引き続き行っている。

下記のような懸念が明らかになってきている

- 受託開発業務での OSS 使用の懸念として、OSS に起因する納期遅延、OSS の瑕疵担保に関する法律知識が必要であるかも
- 本来、自分たちが受注して開発すべき領域の仕事を OSS が奪うのではないか、という懸念
- OSS の品質の基準が無いことが困る

-OSS に問題があった時の対処方法が不明

上記の懸念を解消または緩和するために、下記のようなことが求められていると考えられる。

- 組込み分野での OSS 使用開発における法律知識
- OSS vs プロプライエタリ・ソフトウェアの位置づけの整理の指針
- 既存 OSS を使用する場合、開発プロセスの中での取り扱い方法
- 既存 OSS の品質基準やテスト方法

本年度は、特に、OSS を受け入れる(使用)するときの品質基準として、なんらかのテストを実施することを考えた。

2016 年度は、実際に、Fuzz テストを本 WG で実施してみて、その結果から、テストによる、OSS の品質の捉え方を考えたい。

本年度からの新テーマとして、ロボット用オープンソースに関して調査、議論を行った。

日本製の OSS として、JASA の OpenEL, 産総研の OpenRTM-aist, 名古屋大の自動運転ソフトウェア Autoware などの紹介、啓蒙活動を行った。

・OSS セミナーの実施

OSS ライセンスの認識を高めるための無料セミナーを、下記の通り、OSS コンソーシアム CPE 部会と共同で開催した。

日本の OSS ライセンスの識者を招いて、講演頂いた。また、講演後に懇親会を開催し、講演者と WG メンバとの交流を行った。

タイトル:「ロボット、自動運転と OSS」

開催日時: 2015 年 11 月 25 日 13:30~

場所: 株式会社 TIS 株式会社 の研修室

開催内容

◆講演 1『OSS ドローンについて』

【講演者】今村 博宣 (ドローンワークス株式会社)

◆講演 2『国際標準化を目指すロボット用ハードウェア抽象化レイヤーOpenEL』

【講演者】中村 憲一 (アップウインドテクノロジー・インコーポレイテッド)

(一社)組込みシステム技術協会(JASA)が中心となり仕様を策定している

◆講演 3『自動運転と、自動運転 基本的ソフトウェア Autoware の OSS 化』

【講演者】加藤 真平 (名古屋大学)

聴衆: 29 名

4. 今後の予定

OSS の使用は、ソフトウェアを扱う企業においても、ほぼ必須となりつつある。

OSS ライセンス問題とは異なる、OSS の瑕疵対応などの法律問題、市場奪取懸念、品質基準問題などの存在が、明らかになっている。

2016 年度は、Fuzz テスト試行により、特に、OSS 品質基準問題に定量的な足がかりを得たい。

また、ロボット、自動運転、ドローン用 OSS、機械学習 OSS の普及、発展、活用の普及活動も行う。名古屋大学、産総研などを始めとし、ロボットや自動運転の開発者との交流も積極的に行いたい。

会合は、隔月開催の予定。(基本的に隔月の第 3 火曜日)

状態遷移設計研究会

1.活動概要

状態遷移設計研究会は、状態遷移設計の漏れ抜けに気づきやすい、という特性を持つ状態遷移表を広く普及、定着させることを目的に活動しています。

2013年度より「状態遷移表のリバースモデリングへの適用」という新たなテーマで活動しています。このテーマは、派生開発が主流となっている組込みソフトウェアの開発において既存システムのブラックボックス化により、コードの解析や機能追加などが困難な状態となっている現状を踏まえ、既存のレガシーコードをリバースエンジニアリング手法により解析し、状態遷移の部位を抽出し、状態遷移表を作成するプロセスを研究するものです。

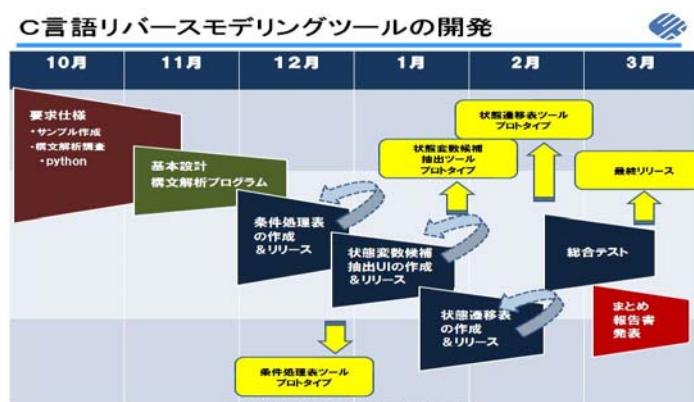
2.定例会議および関連する活動

第 1 回	4月 9 日	:	2015年度年間スケジュールの確認 新規メンバー2名:ニッキ(株)、NEC通信システム参加。
第 2 回	5月 13 日	:	技術本部成果報告レビュー 日経テクノロジーonlineコラム記事執筆&掲載 ・モデリングは芸術、”アートな状態遷移表設計”のすすめ エリック&アンディ 大塚 ・「状態遷移表によるレガシーコードの蘇生術！」 キヤツ 竹田
ET-WEST 2015	6月 10 日 11 日	:	JASA技術本部セミナー講演、ベース説明
第 3 回	7月 22 日	:	サンプルコードの検証。
第 4 回	8月 19 日	:	サンプルコードの検証継続。 新規サンプルコードの検証。
第 5 回	10月 14 日	:	新規サンプルコードの検証継続。 作業手順のレクチャー合宿を計画。
第 6 回	11月 11 日	:	新規サンプルコードの検証継続。
ET-2015	11月 18 日	:	JASA 技術本部セミナー講演
第 7 回	12月 16 日	:	サンプルコードの検証継続
第 8 回	1月 20 日	:	プロトタイプツールの検証、合宿計画。 ツール名称の決定。「RExSTM」 Reverse Engineering x Language to State Transition Matrix
合宿検証	2月 26 日 27 日	:	プロトタイプツールの検証継続。
第 9 回	3月 23 日	:	プロトタイプツールの検証継続。

3. enPIT(名古屋大学産学連携事業)活動

10月から、enPIT の OJL 活動がスタートした。

以下スケジュールを参照。毎月定例で、進捗報告会議を計画する。



- ・enPIT① 7月30日 : 名古屋大学/館研究員、吉田准教授、山本くん、enPIT 打ち合わせ。
- ・enPIT② 8月25日 : enPIT 合宿/スケジュール作成、契約関係打ち合わせ。
～26日
- ・enPIT③ 10月28日 : 名古屋大学にて、10月度進捗報告会議。
・手作業による条件処理表の作成。
・構文解析処理、python で決定。
- ・enPIT④ 11月19日 : ET2015(パシフィコ横浜)にて、11月度進捗報告会議。
- ・enPIT⑤ 12月21日 : 12月度定例進捗、動作環境／構文解析ツールの検証
- ・enPIT⑥ 1月21日 : 1月度定例進捗、条件処理表ツールの検証
- ・enPIT⑦ 2月12日 : 2月度定例進捗、状態変数抽出ツールの検証
- ・enPIT⑧ 3月1日 : enPIT 成果発表会(名古屋大学)

4. 状態遷移設計研究会の活動紹介、広報活動

各地のセミナーや、団体との交流を深めながら、普及活動を行う。

- ① 5月13日 : 技術本部成果報告。⇒ 優秀賞
- ② 5月22日 : CATS 福岡セミナー、「状態遷移表によるレガシーコードの蘇生術！」紹介
- ③ 6月10日～11日 : ET-WEST、技術本部セミナー&パネル展示。
- ④ 7月3日 : JASA/ETセミナー「リバースモデリングによるレガシーコードの蘇生術」
- ⑤ 7月9日～10日 : 宮城県産業センター…状態遷移設計手法セミナーで紹介
- ⑥ 7月15日～17日 : 高度ポリテクセンター…状態遷移設計手法セミナーで紹介
- ⑦ 9月14日～18日 : CATS 状態遷移設計セミナー(中国佛山市順徳:美的集団)にて、紹介
- ⑧ 11月18日～20日 : ET2015、技術本部セミナー講演(11/18)
「リバースモデリングによるレガシーコードの蘇生術」
- ⑨ 12月24日 : 京セラドキュメントソリューションズ(株) 品質保証部
- ⑩ 2月3日～5日 : 高度ポリテク、状態遷移設計手法セミナーにて紹介

5. 今後の予定

- ①プロトタイプツール「RExSTM for C」の公開。
- ②成果のopen化として、賛同企業への出張セミナーや出張コンサル活動を推進する。

IOT 技術研究会

1. 活動概要

クラウドや IT 産業の観点で語られがちな IoT や M2M を、エッジ側(組込み産業／製造業)の観点から、その構成／サービス／拡張性／検証性／ツール化などを検討し、再定義あるいは新規に技術標準を策定し、情報発信する。

そのために、本年度は、IIC、OIC などの国際標準化活動の勉強会に有識者を招いて開催する。
また、これまでに発行されている文献等調査を通じ現状の把握に努める。
なお本研究会はスキルマネージメント協会(SMA)との合同研究会として運営する。

2. 定例会議、勉強会

KICK_OFF 5月28日 関東支部例会において、「IoT 技術研究会」kick_off 講演
「組込み技術が支える IoT (Internet of Things)」
(株)東芝 光井隆浩氏
「IoT 技術研究会の設立に向けて～現状の理解と活動の概要～」
キヤツツ 竹田彰彦

第 1 回 7 月 24 日 (1)「World IoT Forum 7 Layer 概要」
 シスコシステムズ 今井俊宏 氏
 (2)「IoT 向けクラウド HILS」
 東芝情報システム 三島 隆司 氏
 (3)「Open Interconnect Consortium 活動概要」
 YRP-IoT 柚植 晃 氏

第 2 回 8 月 28 日 (1)「Smart Connected Product by M.Porter」
 PTC ジャパン 後藤 智 氏
 (2)「オムロンの MEMS センサー技術およびアプリケーションについて」
 オムロン 細谷 克己氏
 (3)「IoT におけるモデルベース開発の意味や活動について」
 東芝 石井忠俊 氏

第 3 回 10 月 23 日 (1)「FoG/エッジコンピューティングによる移動体 IoT の実現」
 東芝 光井隆浩 氏
 (2)2016 年度活動計画について(WG の素案を議論)
 キヤツ 竹田 彰彦

第 4 回 12 月 18 日 (1)「IoT 時代のモデリング」
 キヤツ 渡辺 政彦 氏
 (2)「IoT プロセッサ動向とゲートウェイ」
 インテルジャパン Gen 氏
 (3)「Smart Connected Product by M.Porter」(続編)
 PTC ジャパン 後藤 智 氏

第 5 回 1 月 22 日 各 WG の kick-off 会議を実施
 (1)第 1 回ビジネス環境 WG kick-off
 (2)第 1 回センサー&データ WG kick-off
 (3)第 1 回エモーション駆動システム WG kick-off

第 6 回 2 月 19 日 (1)「IoT ビジネス最前線(IoT ビジネス研究会の目論見)」
 ユビキタス 佐野 勝大 氏
 (2)第 2 回ビジネス環境 WG とセンサー&データ WG 合同
 (3)第 2 回エモーション駆動システム WG

3. 広報・講演活動

- ① 6 月 26 日
 SMA オープンセミナー「SMA と JASA が連携して推進する IoT の体系化と人材育成」
 キヤツ 竹田彰彦
- ② 11 月 5 日 ~ 11 月 6 日
 「IoT に向けたモバイルシステム技術講座の企画・営業の研修」
 地域ソフトウェアセンター全国協議会 主催
 「M2M/ IoT の基本概念と今後の動向」講演
- ③ 11 月 18 日 ~ 11 月 20 日
 ET2015、JASA ブースにて、IoT 技術研究会のパネル展示 & 説明。
- ④ BulletinJASA vol.56、「IoT 技術研究会の活動報告」寄稿
 キヤツ 竹田 彰彦
- ⑤ 2 月 10 日
 JASA/ET セミナー(仙台)
 「組込み技術者が支える IoT と エッジコンピューティング」

～組込み技術が支えるIoTと移動体での実践例～
東芝 光井 隆浩 氏

4. 今後の予定

2016年度の活動に向けて、具体的な活動テーマを勉強会から抽出し、テーマ単位のWGに分割して推進する。

また、具体的なサービスユースケースの検討、補助助成事業への申請・提案などを通じた共創によるプロトタイプシステムの作成

などは、IoTビジネス研究会およびハードウェア委員会(新技術調査／研究WG)との協調路線で運営する。

① ビジネス環境WG

データは誰のものか？そしてそれは開示可能か？新たなビジネスと成り得るのか？

この問題は、モノの所有権、データの帰属先、利用権およびプライバシーなどのさまざまな法規制が複雑に絡む問題です。

そして、IoTに向けてこれらの法規制が制定・改定されようとしています。

IoTのビジネスユースケースを想定するときに、この法規制をきちんと把握し、理解しておく必要があります。

- ・各種法規制の調査研究
- ・ビジネスユースケースに対応したデータの取り扱いに関する調査研究
- ・データの取り扱いに関するガイドラインの策定 など

② センサー＆データWG

IoTによりさまざまなセンサーや製品がインターネットに繋がり、同時に大量のデータがクラウドに集中する。

しかしながら、組込み目線でその実現性を見ると、設置や保守メンテナンスの問題、データの信頼性、電源の確保など、さまざまな課題がある。

- ・自律複合センサー構築のためのセンサーネットワークの研究
- ・データの信頼性を確保するための、診断や判定技術の研究
- ・故障や増設・交換時の、停止・分離・融合技術の研究
- ・スペースモデリングなどによる、データの適正化技術の研究 など

③ エモーション駆動システムWG

IoT時代の新たなドリブンはエモーション(感情)だという。

これまでのシステムはデマンド(要求)駆動からイベント(行動)駆動に進化してきた。

これからは、IoTのさまざまなセンサーで人のエモーションをキャッチして、サービスを実現するという。

- ・エモーションをキャッチするセンサーとデータの研究
- ・エモーションから要求や行動を喚起するサービスユースケースの研究
- ・エモーション駆動型システムの構築ガイドラインの策定 など

④ 分散型モデルベース開発WG(SMA)

IoTによって個々の製品の機能や、複数の製品の連携が仮想空間で実現される技術革新が起こってきた。

そして新たな価値創造の競争が起こっている。

モデリングの技術は、これらを背景にこれまで以上にそのポテンシャルを発揮すると考えられる。

- ・モデルの仮想空間上での分割・分散・連携アーキテクチャとその検証手法の研究
- ・IoT分散型モデルベース開発技術者のスキル拡充や育成に関する研究 など

IoT技術研究会は、これら4つのWGの活動を中心に、定期的な勉強会や「白熱教室」、各種関連団体との連携などを通じて、組込み産業・製造業の技術視点でIoTを議論・定義し、優位性を持ったサービスの実現に寄与すること目的に活動していく。

応用技術調査委員会

技術セミナーWG

1. 活動概要

昨年までと同様、組込み関連の最新技術に関するセミナーを立案し、実行した。
地方開催を含め、合計 4 回のセミナーを開催した。

2. 活動経緯

年間 9 回の定例会を行った。
主に、セミナー企画、運営打合せおよび振り返りに充てた。

3. 活動成果

- 7 月 3 日 「リバースエンジニアリングによるレガシーコードの蘇生術」
講師:キャッツ 竹田様
無料セミナーとして開催。
参加者数 33 名、アンケート回答者 30 名。
- 10 月 16 日 「国際安全規格の求める生活支援ロボット安全の基本 -ISO 13482 入門-」
講師:長岡技術科学大学 木村様
安全性向上委員会と共に。無料セミナーとして開催。
委員会メンバー 20 名、一般参加 20 名、合計 40 名の参加
- 12 月 17 日 「デザイン思考による体験設計(UX デザイン)の実践」
講師:ホロンクリエイト 高橋様
ハードウェア研究会からのオファーを受けて開催。
出席者 35 名。アンケートは概ね好評
- 2 月 10 日 「JASA/ET セミナー in 仙台」
講師:東芝 光井様
「組込み技術が支える IoT と移動体での実践例」
ユビキタス 佐野様
「本格化する IoT 普及に向けて、ビジネスでの活用で期待されるユースケースを
解説」
アンケート回収数 32 概ね好評

4. 今後の活動予定

現在決定しているセミナーは以下の 3 つ

- 5 月 25 日 「チームリーダーのためのプロジェクトマネジメント」
講師:都産技研 金田様
都産技研との共催
- 8 月 26 日 「ソフトウェア品質(仮題)」
講師:パナソニック 梶本様
東洋大学 野中様
- 1 月～2 月 「セキュリティセミナー(仮題)」
講師:IPA(未定)
JASA セキュリティ WG 三輪様

地方開催セミナーを含め、年間 5 回程度のセミナーを開催予定。

プラットフォーム研究会

1. 活動概要

本年度も昨年度に引き続き、次世代の共通基盤となる技術や考え方を探究し、具体的にロボットのプラットフォーム(PF)について深堀を行うとともに、OpenEL の普及・啓発を目的として活動を行った。

2. 活動経緯

1) 会議

- ・ 5月 14日 (木) 第1回研究会
- ・ 5月 20日 (水) JASA 技術本部成果発表会で発表
- ・ 6月 24日 (金) 第2回研究会、勉強会の開催
 - 講師 : 芝浦工業大学 水川 真 氏
 - 講演タイトル : 「RTC、CANopen、RTC-CANopen の紹介」
- ・ 7月 23日 (木) 第3回研究会、勉強会の開催
 - 講師 : 東京都立産業技術研究センター 吉村僚太 氏
 - 講演タイトル : 「ロボット開発セクターの紹介」
- ・ 8月 26日 (水) 第4回研究会
- ・ 9月 30日 (水) 第5回研究会
- ・ 10月 28日 (木) 第6回研究会、勉強会の開催
 - 講師 : 安川電機技術開発本部つくば研究所 包原孝英氏
 - 講演タイトル : 「安川電機のご紹介」
- ・ 11月 26日 (木) 第7回研究会、勉強会の開催
 - 講師 : 日立製作所 山本健次郎 氏
 - 講演タイトル : 「日立のロボティクス研究のご紹介」
- ・ 12月 18日 (金) 第8回委員会
- ・ 1月 26日 (木) 第9回委員会
- ・ 2月 23日 (火) 第10回委員会、勉強会の開催
 - 講師 : (株)国際電気通信基礎技術研究所 龜井剛次 氏
 - 講演タイトル : 「国際電気通信基礎技術研究所のご紹介」
- ・ 3月 25日 (金) 第11回委員会

2) 合宿の開催(4月 16日～17日)

- ①平成26年度活動のまとめ
- ②平成27年度事業計画の詳細検討
- ③技術本部成果発表会資料作成

3) OpenEL の普及・啓発

また、各種媒体に OpenEL に関する記事を 4 本執筆、ET2015 において講演とデモを実施、OSS コンソーシアムと OSS 活用 WG 共催のセミナーで講演、SI2015 において論文発表、IT 津梁まつり 2016 において講演とデモを実施し、OpenEL およびその活動について広く一般に告知することができた。

- ・2015年9月発行、Bulletin JASA Vol.55
OpenEL の活動状況 その3
- ・2015年9月25日発売、Interface 2015年11月号
ラズパイからでも！モータ&センサ制御用ミドルウェアを試す
保存版 フリー・ソフト事典 256
- ・2015年10月16日公開、日経テクノロジーオンライン
OpenEL で ET ロボコンにチャレンジ
<http://techon.nikkeibp.co.jp/atcl/column/15/412221/101300010/?rt=nocnt>
- ・2015年11月9日公開、MONOist

ロボット向けハードウェア抽象化レイヤー「OpenEL 2.0」とは何か
<http://monoist.atmarkit.co.jp/mn/articles/1511/09/news006.html>

- ET2015
JG-1「日本発の国際標準を狙う次世代のロボット開発プラットフォーム OpenEL」
事前登録は満席(180名)、当日の聴講者は、79名
また、展示会場内 JASA ブースにおいて、講演とデモを実施した。
「静電容量型トルクセンサ紹介」(第一精工株式会社 山田 陽明 氏)
聴講者:11月18日:11名、11月19日:4名、11月20日:6名
- 11月25日(水):JASA 技術本部技術高度化委員会 OSS 活用 WG 共催
OSS コンソーシアム Cyber Physical Embedded 部会 第10回セミナー「ロボット、自動運転と OSS」「国際規格化を目指すロボット用ミドルウェア OpenEL」
聴講者:29名
- 12月14日(月)~16日(水):計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会(SI2015)
(名古屋)
「ロボット向けハードウェア抽象化レイヤー OpenEL 2.0」と題した論文発表を行った。
- 1月22日(金)~23日(土):IT 津梁まつり 2016(沖縄県豊見城市)
「ロボット向けハードウェア抽象化レイヤー OpenEL 2.0 のご紹介」と題した講演を2回とデモ展示を行った。

3. 活動成果

ロボット技術に関する国際規格やプラットフォームについて知見を広めることができた。
JASA 技術本部成果発表会において、OpenEL 2.0 を広く一般に発表し、最優秀賞を受賞した。
ET2015 ロボットセッション、JASA 技術本部セミナーおよび JASA ブースにおいて、100名以上の参加者に OpenEL を紹介することができた。

4. 今後の予定

- 4月 14日(木) ~ 15日(金) : 合宿
- 5月 18日(水) : 技術本部成果発表会
- 5月 24日(火) : 第1回研究会の開催

6月以降に関しては毎月1回開催予定

ハードウェア委員会

1. 活動概要

- WG1 ものづくり技術者育成テーマ検討
- WG2 新技術調査、及びOpenEL準拠の標準プラットフォームの検討

2. 活動経緯

- ①WG1、WG2 テーマの検討
第1回会議: 4月 7日(火)16:00-18:00 JASA 会議室(8階)
第2回会議: 5月 12日(火)16:00-18:00 JASA 会議室(8階)
第3回会議: 6月 9日(火)16:00-18:00 JASA 会議室(8階)
第4回会議: 7月 7日(火)16:00-18:00 JASA 会議室(8階)
第5回会議: 9月 8日(火)16:00-18:00 東海ソフト株式会社東京支店会議室
第6回会議: 10月 6日(火)16:00-18:00 JASA 会議室(8階)
第7回会議: 11月 10日(火)16:00-18:00 JASA 会議室(住長第二ビル3階)
第8回会議: 12月 8日(火)16:00-18:00 JASA 会議室(住長第二ビル3階) (+忘年会)
第9回会議: 2月 9日(火)16:00-18:00 JASA 会議室(住長第二ビル3階)
第10回会議: 3月 8日(火)16:00-18:00 JASA 会議室(住長第二ビル3階)

- ②JPCAショー2015 出展
6月3日～5日 東京ビックサイト
- ③技術本部発表会 発表
5月20日 技術本部発表会 WG1、WG2 発表 WG1 特別賞
- ④プラットフォーム研究会、及びOpenEL国際標準化委員会 参加
6月24日、7月23日、8月26日、9月30日 株式会社エヌデーデー 会議室
- ⑤セミナー開催(セミナー委員会に依頼)
12月17日 JASA 会議室(住長第二ビル3階)

3. 活動成果

- ①WG1:前年から引き続き「ものづくり技術者の育成」をテーマとして継続的に活動した。
これからの技術者に必要なスキルとしてユーザー思考、社会環境思考、マネージメント思考ができる開発技術視野などに着目して検討し、それらに対する有効な手法としてビジョン提案型の手法を学んだ。
また、その一環としてセミナー委員会の主導の下セミナーを開催した。
テーマ:『デザイン思考による体験設計(UX デザイン)の実践』
～企業内の共創開発の手法と課題～
講師:株式会社ホロンクリエイト 代表取締役 高橋克実氏
参加人数:30名超。
その後振りを行い、28年度の早期に当委員会内でワークショップを開催する予定。

②WG2:

最近のソフトウェア中心となっている組込み業界ではハードウェアに求められるものも変化していることから、これからの新しいサービスや技術に於いてハードウェアがどう関係するかを調査している。前半ではその一環から主にロボットの標準プラットフォーム用のハードウェアを考察する活動をした。(27年度技術本部発表会で一部を披露)

- > RAPIROにOpenELを組み込んで動作させる
- > おもちゃのロボットアームをFPGAで動作させる
- > サーボモータ制御に特化した新プロセッサのデモ会、その他

また28年度に繋がるテーマとしてセンサーネットワークを決めIoT技術研究会と連携を始めた。

③JPCAショー出展

ハードウェア委員会企業4社参加。
JASAおよびハードウェア委員会活動の広報、参加企業の商談

4. 今後の予定

第1回会議: 4月7日(火)16:00-18:00 JASA 会議室

【議題】技術本部発表の内容確認

第2回会議: 5月12日(火)16:00-18:00 JASA 会議室

第7回IoT技術研究会への参加: 4月22日(金)13:30-17:45 JASA 会議室

JPCA2016: 6月1日(水)～3日(金) 東京ビッグサイト

プラグフェスト実行委員会

日本プラグフェストの開催

- ①2015年春 第7回日本プラグフェスト
開催日程: 2015年 5月 28日(木)～29日(金)
基調講演: 2015年 5月 28日(木) 11:00～12:00
テーマ: 「Ultra HD Blu-ray™規格化とその期待」
講師: 矢羽田 洋氏 パナソニック株式会社 アプライアンス社 技術本部

ホームエンターテインメント開発センター 主幹技師

開催場所：一般財団法人 京都府中小企業センター
京都市右京区西院東中水町 17 番地（西大路五条下ル東側）
参加者人数：23 社／ 55 名

②2015 年秋 第 8 回日本プラグフェスト

開催日程：2015 年 11 月 26 日（木）～ 27 日（金）
開催場所：インペリアル貸会議室
東京都渋谷区代々木 1-60-11 東興本社ビル 7 階
参加者人数：22 社／ 62 名

ET事業本部

ET実行委員会

進化する組込み技術と“つなげる”先進技術を集結し、新たな総合技術展としての第一歩となった「ET2015」「IoT Technology2015」を盛況裡に開催することができた。

初開催となった IoT Technology 展は、IoT を冠とする他展と一線を画し、技術展にこだわった企画により展開。今後の成長産業へ向けたビジネス展開、取り組むべきテーマやキーワード等を盛り込み、組込み技術と IoT 活用技術双方の先端テクノロジーとソリューションを多くの来場者に対し提供することができた。IoT 関連企業の新規出展も増え、また来場者数も前回比で 1 割増となり、本展への期待の高さが伺えた。

カンファレンスでは、ビジネス、トレンド、テクニカルと多彩な側面から動向を概説、基調・特別講演、パネルセッションなど各会場とも多くの聴講者を集めることができた。中でも ET 及び IoT の各テクニカルセッションは、早い時期より全てのセッションが満席となつたため、急遽、展示会場内にサテライト会場を設け聴講できる仕組みとした。またライブテキスト中継を実施したセッションは、テキスト化した PDF データをダウンロード可能としている。

また、優れた製品・技術・ソリューションを選出・顕彰する「ET Award」では、審査委員会の厳正な選考の下、ET 優秀賞:2 件、IoT 優秀賞:2 件、特別賞:2 件、計 6 件の受賞製品を選出した。

併催イベントとしては、人材発掘・育成を目的とした「組込み・IoT ハッカソン」を新たに企画・開催した。今回はエグジビションマッチとして実施されたが、ET ロボコンチャンピオンシップ大会と併せ、ET/IoT 展の主イベントとして位置付け拡大していくことを期待している。

同じく、会期中には、JASA 委員会による併催事業も展開された。技術本部各委員会からの調査研究活動と成果紹介「技術本部セミナー」。また、国際委員会による「グローバルフォーラム」では人材活用と成果をテーマにアジア諸国とのビジネス展開の講演が行われた。

＜開催概要＞

名称 Embedded Technology 2015／組込み総合技術展

IoT Technology 2015／IoT 総合技術展（新設）

会期 11 月 18 日（水）～20 日（金）

会場 パシフィコ横浜 展示ホール、アネックスホール、会議センター

開催規模 出展社 388 社・団体 小間数:777 小間（前回:364 社・団体 756 小間）

カンファレンス 116 セッション

来場者数 25,077 名（前回:22,507 名）

受講者数 12,733 名（一部併催セミナー除く）

併催イベント

・ET ロボコンチャンピオンシップ大会 競技:18 日 ワークショップ:19 日

・組込み IoT ハッカソン 参加 10 チーム

・ET・IoT アワード 受賞 ET 優秀賞:2 件 IoT 優秀賞:2 件 特別賞:2 件

＜会議・委員会の開催＞

ET／IoT Technology 2015 の企画立案及びカンファレンス構築のため実行委員会を 4 回に渡り開催

した。併せて、正副委員長会議、企画会議、アワード審査会等を設け、事業遂行と運営推進に努めた。

また、ET2015 開催概要の発表・紹介機会として、メディア関係者を対象としたプレス発表会を開催した。

第 1 回実行委員会 4 月 14 日開催

- ・開催要綱と企画等確認
- ・カンファレンス全体構成確認
- ・運営スケジュール確認

第 2 回実行委員会 5 月 22 日開催

- ・ET／IoT 会場仕様及びレイアウト検討
- ・講演テーマ・講演者選考
- ・テクニカルセッション(ET／IoT)構成及びテーマ・講師選考

第 3 回実行委員会 6 月 25 日開催

- ・基調講演・特別講演 講演者選定、依頼状況確認
- ・テクニカルセッション(ET／IoT×各 7 セッション) テーマ・講師選定
- ・パネルセッション 題材及びモデレータ選定、状況確認
- ・担当委員選選出(各セッション担当及び企画ゾーン担当他)

正副委員長会議 7 月 24 日開催

後援団体 YRP 研究開発推進協会との会合 7 月 30 日実施

査読会(タイトル、アブストラクト等) 8 月 5 日実施

広報・プロモーション計画策定会議 8 月 18 日実施

カンファレンス概要説明(実行委員会) 8 月 21 日開催

- ・基調講演:4 講演、特別講演:7 講演(候補)を選定
- ・テクニカル:ET で 7 セッション、IoT で 7 セッション、計 14 セッションを選定
- ・パネルセッション:2 タイトル
- ・技術系セミナー:IoT はじめ 7 トラックを構成 EDA-LPB セッションを新設

出展説明会(パシフィコ横浜) 8 月 27 日開催

- ・主催者挨拶／門田専務理事
- ・開催概要・カンファレンスプログラム等／山田実行委員長
(IoT 展新設の趣旨、開催要綱、カンファレンスプログラム、併催イベント、他)
- ・展示会活用法「展示会で出展成果を最大限にするには」／辻井氏
- ・出展要項、フロアプラン、スケジュール等／ET・IoT 事務局

プレス発表会(サンケイ会館) 8 月 27 日開催 報道関係者 14 名が参加

- ・開催概要、IoT 開催趣旨、企画イベント等を発表・紹介
- ・IoT 展新設と同時開催の趣旨、注目ポイント紹介

正副委員長会議 9 月 15 日開催

正副委員長会議 10 月 8 日開催

査読会 10 月 14 日実施

アワード一次審査会 10 月 27 日開催

アワード最終審査会 11 月 2 日開催

- ・受賞者選考・決定

第 4 回実行委員会 1 月 7 日開催

- ・2015 開催結果報告及び次回企画運営に向けた提言等取り纏め
- ・各種報告(来場者分析、出展社分析、来場動員プロモーション、カンファレンス受講分析等)
- ・IoT 同時開催による成果等 前年比較で 2,500 名強増加

EDA-LPB メンバーミーティング 2 月 4 日実施

正副委員長会議 2 月 26 日開催

企画会議 3 月 10 日開催

- ・ET／IoT2016 運営要領、委員会組織等について審議検討
- ・IoT 展開による成果とメリットを最大限に打ち出した展開促進策
- ・来場プロモーション強化とターゲット層への展開(SIer 等)

組込み IoT ハッカソン企画会議 3 月 30 日開催

ETWest 実行委員会

西日本唯一の組込みシステム技術と関連製品・ソリューションのイベントとして開催した。近畿支部が中核となり、経産局、関連機関等との連携により、関西地域の特色を生かした展示会とカンファレンスを企画・運営し、広く西日本における関連産業の発展に寄与した。

今回は、第 10 回となる記念開催として、IT→ICT→IoT で「人」と「モノ」をつなごう！をテーマに掲げ、記念講演や IoT への展開を意識したテーマも取り上げることで受講者が増え、また交通至便な「グランフロント大阪」での開催により、過去最高となる 6,539 名の来場者を迎えることが出来た。

なお、本年度内には次回 ET West 2016 に向けて、新委員会を組織、企画立案、カンファレンス構築を進めている。「IoT Technology West」を新設・同時開催し、「ものづくりがわかる、IoT がわかる」をテーマに、2016 年 7 月 7 日、8 日に開催する。

＜開催概要＞

Embedded Technology West／組込み総合技術展関西

会期 2015 年 6 月 10 日(水)、11 日(木) 10:00-17:00

会場 グランフロント大阪

展示規模 出展社 131 社 183 小間 (前回 129 社 185 小間)

来場者数 6,539 名 (前回 6,132 名)

カンファレンス 40 セッション 受講者数 4,556 名 (前回 4,211 名)

同時開催 Smart Energy Japan IN Osaka

＜会議・委員会の開催＞

第 2 回実行委員会 4 月 21 日開催

・会場使用計画

・出展状況確認

・カンファレンス

・記念イベントと記念品について検討

第 3 回実行委員会 7 月 28 日開催

・結果報告(出展社・来場者アンケート集計、カンファレンス集計等)

・次回に向けた改善点などと提言取り纏め

ET West 幹部会議 9 月 2 日開催

・2016 開催要綱と運営要領の確認・検討

・今後の展開と戦略など

第 1 回実行委員会(2016) 12 月 16 日

・委員会組織と運営体制確認

・開催概要とテーマ、カンファレンス全体構成確認

・IoT Technology West の新設に向けた検討

企画会議 2 月 17 日開催

・カンファレンス構成とテーマ・講演者選定

＜京都スマートシティ EXPO への出展＞

地域展開の一環として、近畿支部及び中部支部 5 社と共に協会ブースを運営した。

スマートシティメッセ in けいはんな

会期(展示) 2015 年 5 月 21 日(木)、22 日(金)

会場(展示) けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)

VI 支部活動報告

北海道支部

H27 年度活動なし

東北支部

1. 事業概要

東北地域・産業団体との交流、情報交換を更に活発化させ、ET 展示会等のビジネスマッチングの場を活用して地元企業の強みを情報発信することで、東北地域における組込み産業の振興に貢献することができた

2. 会員の異動状況

バックス情報システム株式会社(いわき市)、匠ソリューションズ株式会社(仙台市)の 2 社が今年度入会されました。

3. 事業実績

(1)JASA 東北支部事務局引継ぎ調整会議

日 時 平成 27 年 4 月 4 日(土)10:00～12:00
場 所 株式会社東杜シーテック
出 席 者 及川、白戸
内 容 東北支部事務引継ぎ

(2)JASA 本部、東北支部事務調整会議

日 時 平成 27 年 4 月 21 日(火)15:00～18:00
場 所 JASA 本部
出 席 者 鈴木事務局長他本部事務局員、白戸
内 容 事務内容説明、調整他

(3)JASA 東北支部業務打合せ

日 時 平成 27 年 5 月 7 日(木)13:30～15:00
場 所 トライポッドワークス株式会社
出 席 者 佐々木支部長、事務局白戸
内 容 業務調整他

(4)JASA 東北事務局体制変更の宮城県内各所へのご挨拶

日 時 平成 27 年 5 月 11 日～14 日
場 所 東北経済産業局地域経済部情報・製造産業課
宮城県震災復興・企画部 情報産業振興室
仙台市経済局産業政策部産業振興課
宮城県情報サービス産業協会
みやぎ工業会
仙台フィンランド健康福祉センター協議会
出 席 者 各組織長他、事務局白戸
内 容 ご挨拶

(5)ET2015 共同出店事業会議

日 時 平成 27 年 5 月 26 日(火)15:00～17:00
場 所 宮城県震災復興・企画部 情報産業振興室

出席者 宮城県情報産業振興室、ICR、みやぎ組込み産業振興協議会、事務局白戸
内容 ET2015 共同出店事業について

(6)ET2015 関連打合せ

日 時 平成 27 年 6 月 2 日(火)10:00~12:00

場 所 ICR

出席者 ICRET2015 担当者 2 名、事務局白戸

内 容 ET2015 出展内容調整

(7)「山形県次世代コンピュータ応用ネットワーク」27 年度 1 回交流会参加

日 時 平成 27 年 6 月 12 日(金)15:00~18:00

場 所 山形大サテライトキャンパス

出席者 山形県商工労働観光部工業戦略技術振興課、山形県工業技術センター、

山形県教育センター、山形大工学部、鶴岡高専、山形県立産業技術短大、

山形県組込み関係各社・情報処理関係各社・ハード開発関係各社、

ほか 40 数名(内 1 名当協会会員)の方、事務局白戸

内 容 講 演 NPO 法人 YRI(ワイ・リサーチ・イノベーション)様

产学連携が上手くいってない現状を打破するために産業界で豊富なビジネス経験を持つ企業、個人が全般支援する米沢地区での活動組織

(8)平成 27 年度第 1 回東北支部会議

日 時 平成 27 年 7 月 10 日(金)15:00~19:15

場 所 産総研東北サテライト他

出席者 会員 10 名、東北経済産業局課長 有路様、課長補佐大友様

内 容 •平成 26 年度事業報告、平成 26 年度収支決算、平成 27 年度事業予算案、

平成 27 年度事業計画案、【報告、協議】 原案通り承認

•新規加入者様ご紹介

•講 演 インテリジェント・コスモス研究機構(ICR) 新田政芳様

演題「平成 27 年度東北地域高度 IT 分野事業」

•[第 2 部] 懇親会 17:15~19:15

(9)高度 IT 関係者推進会議

日 時 平成 27 年 7 月 17 日(金)13:30~16:30

場 所 東北経済産業局会議室

出席者 東北経済産業局 大友課長補佐、他課員 3 名

東北 6 県情報関係担当者 各県 2, 3 名 計 16 名

ICR 3 名 事務局白戸

内 容 •今年度補助事業について 経済産業局

•「平成 27 年度東北地域高度 IT 分野事業」、ET2015 共同参加関係について
インテリジェント・コスモス研究機構(ICR) 新田政芳様

(10)ET ロボコン東北大会支援

日 時 平成 27 年 8 月 22 日(土) 10 時~試走会

平成 27 年 9 月 12 日(土) 10 時~東北地区大会

場 所 岩手県盛岡市「アイーナ」

出席者 門田専務理事、事務局白戸

内 容 ET ロボコン 2015 東北大会優秀 2 チームへ「JASA 東北支部賞」授与、
出席者は東北経済産業局有路課長様他

(11)組込み総合技術展(ET2015)「TOHOKU パビリオン」出展社合同会議

日 時 平成 27 年 9 月 16 日(水) 13:30~16:00

場 所 東北経済産業局

出席者 東北経済産業局有路課長様、出展社各社、東北 6 県情報関係部署担当者他
内容
・運営事務局からの概要説明、留意事項説明
・ICS ビジネスマッチングシステムについて
・東北パビリオン出展概要
・出展社からの出展内容、PR 他

(12)平成 27 年度第 2 回支部会議

日 時 平成 27 年 10 月 9 日(水) 13:00～14:00
場 所 山形市 大学コンソーシアムやまがた ゆうキャンパスステーション
出席者 会員 6 名、東北経済産業局大友課長補佐様
内 容 1)平成 27 年度事業報告
2)平成 27 年度収支決算報告
3)平成 27 年度今後の事業について

(13)平成 27 年度第 1 回オープンセミナー開催

山形県次世代コンピュータ応用ネットワーク(YNCA)様と共に
日 時 平成 27 年 10 月 9 日(水) 14:30～16:30
場 所 山形市 大学コンソーシアムやまがた ゆうキャンパスステーション
出席者 第 2 回支部会議出席者、東北支部会員社員、YNCA 会員計 50 名
【演題】「失敗から学ぶ組込みソフトウェア高信頼化のためのアプローチ法」
【概要】IPA/SEC では、機能規模が拡大するとともに複合化する傾向にある製品・制御システム(組込みシステム)において、システム全体として信頼性を確保するための技術面での工夫や、運用面での工夫について調査・検討を行っています。本セミナーでは、2014 年度の活動内容を紹介し、その活動成果として、2015 年 3 月に公開した「製品・制御システム 高信頼化のための行動指針」、「情報処理システム高信頼化教訓集(製品・制御システム編)2014 年度版」について解説します。さらに本教訓集の「PART IV 障害分析手法事例解説書」の中から、障害分析手法と障害分析作業を具体的な事例に即して解説。
【講師】独立行政法人情報処理推進機構(IPA/SEC)
三浦幸博殿 石田茂殿 松田充弘殿

(14)本年度 JASA 加盟社「バックス情報システム株式会社」様訪問

日 時 平成 27 年 10 月 20 日(火) 13:00～15:00
場 所 バックス情報システム株式会社
福島県いわき市小名浜
出席者 若林正美顧問(元富士通)、東北支部事務局白戸
内 容
・JASA 本部、及び東北支部の活動概要説明、JASA への要望等の質疑応答他
を行い、支部会への出席のお願い等
・バックス情報システム様はいわき市小名浜に自社ビルにてデータセンター
事業、ビジネスアプリケーション開発等を主とし、他機器制御システムソフトウェア、
組込み応用技術開発等の事業展開
・原発事故の関係で仙台等の交通事情が大変悪い等の状況

(15)第 19 回地域情報化諸官庁合同説明会

日 時 平成 27 年 11 月 5 日(木)13:30～16:30
場 所 仙台第二合同庁舎 大会議室
内 容
1)開会挨拶
　経済産業省 東北経済産業局 地域経済部 情報・製造産業課長 有路正浩様
2)総務省 ICT 関係重点施策の概要について
　総務省 東北総合通信局 情報通信部 情報通信振興課 課長 加藤明彦様
3)スマート農業の推進について
　農林水産省 大臣官房政策課 技術政策室 課長補佐 中谷康則様

4)国土交通省における取組について
ICTを活用した歩行者移動支援サービスの展開に向けた取り組みについて
国土交通省 総合政策課 総務課 政策統括官付 企画専門官 松田和香様

(16)ET2015「TOHOKU パビリオン」運営支援

日 時 平成 27 年 11 月 18 日(水)～11 月 20 日(金)
場 所 パシフィコ横浜
内 容 技術分野参加企業一覧
・スマートアグリ
　株式会社エキサイト(宮城)、株式会社 SJC(宮城)
・オートモティブ
　NEC エンベッデットプロダクツ(山形)、匠ソリューションズ株式会社(宮城)
・スマートエネルギー
　東杜シーテック株式会社(宮城)
・スマート工場
　安川情報エンベッデド株式会社(宮城)
・デジタルヘルスケア
　NEC ソリューションイノベータ株式会社(宮城)、株式会社サンライズ・エー・イー(青森)、
株式会社ジェーエフピー(岩手)、青葉県産業技術センター(青森)、ひさき設計株式会
社(福島)、株式会社ホクシンエレクトロニクス(秋田)、(有)ホロニック・システムズ(岩手)、
山形県次世代コンピュータ応用ネットワーク(山形)
・IoT
(株)イーアールアイ(岩手)、株式会社 GCIue(福島)

(17)平成 27 年度第 3 回支部会議

日 時 平成 27 年 12 月 11 日(金) 15:30～17:00
場 所 盛岡市 岩手県民情報交流センター 813 号室
出席者 東北経済産業局有路正浩課長、JASA 本部門田専務理事、会員 6 名
内 容 1)平成 27 年度事業報告
2)平成 27 年度収支決算報告
3)平成 27 年度の事業について
　① 第 184 回理事会報告
　　佐々木賢一東北支部長
　② オープンセミナー開催について
　　JASA/ET セミナー in SENDAI 開催を計画
　③ その他
4)平成 28 年度事業計画、事業予算検討

(18)東北工業大来年度求人について

日 時 平成 27 年 12 月 22 日(火) 17:00～17:30
場 所 東北工業大学キャリアサポート課
出席者 キャリアサポート課 事務主任 小室智紀様
内 容 来年度求人の要請依頼について

(19)平成 27 年度第 4 回支部会議

日 時 平成 28 年 2 月 10 日(水) 12:30～13:20
場 所 仙台市情報産業プラザ 6F 特別会議室
出席者 東北経済産業局大友誠課長補佐、会員 9 名、事務局 1 名
内 容 1)平成 27 年度事業報告

- 2)平成 27 年度収支決算報告
- 3)H28 年度事業計画、事業予算検討

(20)「JASA/ET セミナーinSENDAI」開催

日 時 平成 28 年 2 月 10 日(水) 14:00~17:00
場 所 仙台市情報産業プラザ 6F セミナールーム
主 題 『組込み技術者が支える IoT とエッジコンピューティング』
講 演 1 『組込み技術が支える IOT と移動体での実践例』
株式会社 東芝 IoT&メディアインテリジェンス事業開発室
室長附 光井 隆浩様
講 演 2 『本格化する IoT 普及に向けて、ビジネス活用で期待されるユースケース』
株式会社ユビキタス 代表取締役 佐野 勝大様
参 加 者 45 名
本部 応用技術調査委員会 技術セミナーWG 殿ご支援のもと上記を開催、会場終了時間間際まで質疑応答が続く大変好評なセミナーとなつた。

(21)ET2016 東北パビリオン運営調整会議

日 時 平成 28 年 3 月 4 日(水) 9:30~10:30
場 所 トライポッドワークス株式会社会議室
参 加 者 東北経済産業局 情報・製造産業課 有路課長、大友課長補佐
JASA 東北支部 佐々木支部長 事務局 白戸
内 容 来年度ET2016 東北パビリオン運営体制について

日 時 平成 28 年 3 月 16 日(水) 15:00~16:00
場 所 株式会社インテリジェント・コスモス研究機構(ICR)会議室
参 加 者 ICRコーディネータ 新田様、大内様
JASA 東北支部 事務局 白戸
内 容 来年度ET2016 東北パビリオン運営体制について

日 時 平成 28 年 3 月 17 日(木) 15:00~16:00
場 所 東北経済産業局会議室
参 加 者 東北経済産業局 情報・製造産業課 大友課長補佐
ICRコーディネータ 新田様
JASA 東北支部 事務局 白戸
内 容 来年度ET2016 東北パビリオン運営体制について

(22)組込みシステム技術協会東北支部平成 28 年度運営調整会議

日 時 平成 28 年 4 月 5 日(木) 13:00~14:00
場 所 トライポッドワークス株式会社会議室
参 加 者 佐々木東北支部長、事務局白戸
内 容 来年度東北支部運営体制について

日 時 平成 28 年 4 月 7 日(木) 14:00~16:00
場 所 株式会社イーアールアイ会議室
参 加 者 イーアルーアイ代表取締役水野社長、事務局白戸
内 容 来年度東北支部運営体制について

関東支部

1. 事業概要

東京支部から関東支部に改名して1年、関東支部は『ビジネスを創る/育てる公器となる』をビジョンに以下の活動に注力した。

- ・政府/自治体情報の発信
- ・会員企業のビジネス機会創出
- ・会員企業の人材育成支援

東京都中小企業振興公社、経済産業省関東経済産業局との連携により、いち早く政府/自治体情報の発信を行えるようになった。

人材育成支援として『IoT』をテーマにした講演会、セミナー、また新たに幹部候補研修を立ち上げ、約1年間にわたり会員企業の人材育成の場を設けた。

来期は『破壊的イノベーション』をテーマに企画を推進し、会員企業のビジネス機会創出を目指す。

2. 事業実績

(1) 会議

関東支部企画運営ワーキンググループ

各支部事業の内容・企画を検討し、支部事業の円滑な運営に努めた。

・ 4月 8日 (水)	17:00～19:00	JASA会議室
・ 5月 22日 (金)	17:00～18:30	JASA会議室
・ 6月 10日 (水)	17:00～18:15	JASA会議室
・ 7月 8日 (水)	17:00～18:15	ユークエスト会議室
・ 8月 19日 (水)	17:00～18:30	NTTソフトサービス会議室
・ 9月 11日 (水)	17:00～18:30	JASA会議室
・ 10月 14日 (水)	17:00～18:30	エヌデーデー4階会議室
・ 11月 11日 (水)	17:00～18:30	TDIプロダクトソリューション8階会議室
・ 12月 9日 (水)	17:00～18:00	JASA会議室(小伝馬町)
・ 1月 13日 (水)	17:00～18:00	JASA会議室(小伝馬町)
・ 2月 10日 (水)	17:00～18:30	ユークエスト会議室
・ 3月 9日 (水)	17:00～18:30	NTTソフトサービス会議室

(2) 支部会議、例会

➤ 支部例会(5月)(第一部:例会/講演会 第二部:交流会)

- ・日時:平成27年5月28日(木)14:30～19:30

【第一部 例会/講演会】 14:30～17:30 参加者:72名

- ・会場: 京王プラザホテル47階「あけぼの」

・次第

- 平成26事業・決算報告、平成27年度事業計画紹介
- 「IoT技術研究会」キックオフ

➤ 記念講演「組込み技術が支える IoT(Internet of Things)」

光井 隆浩 氏／株式会社東芝 インダストリアルICTソリューション社

➤ 募集「IoT技術研究会の設立に向けて～現状の理解と活動の概要～」

竹田 彰彦 氏／キャツツ株式会社 プロダクト事業本部

- 講演「課題解決のためのデザイン論 ～新規事業の創成のために～」
河井 研介 氏

- 事業紹介「ポリテクセンターの紹介

～能力開発セミナー及び人材(求職)情報のご案内～」

村岡 敦 氏／高齢・障害・求職者雇用支援機構 高度ポリテクセンター 事業課

松浦 康裕 氏／高齢・障害・求職者雇用支援機構 ポリテクセンター関東 訓練第二課

- 新入会員紹介

(1) TIS ソリューションリンク株式会社

(2) 株式会社金沢エンジニアリングシステムズ

(3) リネオソリューションズ株式会社

(4) パナソニック株式会社 人材開発カンパニー

【第二部 交流会】 17:45～19:15 参加者:63名

・会場: 京王プラザホテル 44階「ハーモニー」

➤ 支部例会(8月)(第一部:講演会 第二部:納涼懇親会)

・日時:平成27年8月27日(木)

【第一部】 14:00～17:20 参加者:56名

・場所:東実年金会館4階 会議室

・次第

- 講演会「IoT 市場の創造、ベンチャー精神とエコシステムの重要性」

永井 寿 氏／インテル株式会社 ビジネス・デベロップメント・グループ
データセンター&IoT 事業開発部

- 紹介1「中小企業向け海外展開知財支援策」

西村 純一 氏／関東経済産業局 地域経済部 産業技術課特許室

- 紹介2「2015版 中小企業白書の概要」

伊奈 友子 氏／中小企業庁 事業環境部 企画課 調査室

- 新入会員紹介

(1) データテクノロジー株式会社

(2) 匠ソリューションズ株式会社

(3) 株式会社ニッキ

(4) ベクターソフトウェア・ジャパン

- 会員企業新製品&サービス紹介

株式会社 iTesT 「Professionalな派生機種管理ツール(SVN for Pro.)」

【第二部 納涼交流会】 17:45～20:15 参加者:52名

➤ 支部例会(12月)(第一部:講演会 第二部:忘年会)

・日時:平成27年12月4日(金) 14:00～19:45

【第一部 講演会】 14:00～17:10 参加者: 55名

・場所:新宿エルタワー サンスカイルーム1C

・次第

- 平成28年度事業計画予算案について

- 講演会1「IoT 社会を支えるフロント技術～IoT 向け組込みシステムの紹介～」

石原 輝雄 氏／株式会社富士通研究所 ネットワークシステム研究所

- 講演会2「IoT 社会を支える人材の育成 IPA活動の紹介」

田中 久也 氏／情報処理推進機構 理事

- 新入会員企業紹介

(1) アイ・サイナップ株式会社

- 会員企業の製品&サービス紹介

- (1) 株式会社メタテクノ
- (2) TDI プロダクトソリューション株式会社
- (3) 日本生命保険相互(あいおいニッセイ損保)
- (4) 損害保険ジャパン日本興亜株式会社

【第二部・忘年会】 17:45～19:45 参加者:53名

・会場 :新宿東口 DreamStore

➤ 支部会議(2月)(第一部:会議・講演会 第二部:交流会)

・日時:平成 28 年 2 月 25 日(木) 14:30～19:30

【第一部 会議・講演会】 14:30～17:45 参加者: 55 名

・場所:東実年金会館 4 階 会議室

・次第

- 平成 28 年度事業計画案紹介
- 講演会「価値創造の仕組み ~IoT で何を創りだすか~」
竹林 一 氏／オムロン株式会社 京阪奈イノベーションセンタ
- 紹介 1「平成 28 年度東京都中小企業施策のトピックス」
清水 郁男 氏／東京都中小企業振興公社 総合支援部取引振興課長
- 紹介 2「経済産業省の情報関連施策等について」
久世 尚史 氏／経済産業省関東経済産業局 情報政策課長
- 紹介 3「未来科学プロジェクトの概要と目指す人材像」参加のお願い
汐月 哲夫 氏／東京電機大学未来科学部 教授 ロボット・メカトロニクス学科
- 新入会員企業紹介
 - (1) 株式会社ロボテック
 - (2) 株式会社ウォンツ
 - (3) 株式会社アイテック
 - (4) 第一精工株式会社
- ① 会員企業新製品&サービス紹介
 - (1) 株式会社富士通コンピュータテクノロジーズ
「視線検出システム EyeExpert」「TechShop」
 - (2) ガイオ・テクノロジー株式会社
「モジュール単体テスト 代行検証サービス」

【第二部・交流会】 17:50～19:30 参加者:44名

・会場 :東実年金会館 3 階会議室

(3) 各種セミナー

➤ 平成 27 年度 フレッシャーズセミナー

・日時:4 月 6 日(月)～7 日(火) 9:00～17:00(計 14 時間)

・場所:東実年金会館 4 階会議室

・参加者: 8 社 35 名

・内容:

・ビジネスマナー(講義・実習)1.5 日

講師:株式会社オイコス メンター 大坪 隆志 氏

・「組込みシステム入門講座」 0.5 日

・「組込みの世界、こんな話、あんな話」

講師:株式会社ジェイテック 星 光行 氏

・「新入社員に求められる組み込みシステムの基礎知識」

講師:株式会社グレープシステム 宮下 光明 氏

- IT 業界に必要とされる接遇セミナー～上級編～
 - ・日時:4月22日(水) 9:00～17:00
 - ・場所:東実年金会館3階 会議室
 - ・参加者:10社／29名
 - ・講師:株式会社 JTB コーポレートソリューションズ 内倉 広輔 氏
- ビッグデータ利活用講座
 - ・日時:10月21日(水) 10:00～17:30
 - ・場所:JASA 会議室(小伝馬町)
 - ・参加者:9社／13名
 - ・講師:株式会社豆蔵 中山 尚子 氏、金子 聖史 氏
- JASA 幹部候補研修「事業推進者のための価値づくり研修－dNPI2015－」
 - ・目的:JASA 会員企業の
 - ・幹部／幹部候補の人財育成を支援
 - ・受講者間の人脈形成の会を提供
 - ・日程:全10回(毎月1回／6月～3月／土曜日／9:00～17:00)
 - ・場所:日本ノーベル株式会社会議室(北区王子)
 - ・講師:河井 研介 氏
 - ・参加者:8社／15名

(4) 見学会

- 浜松ホトニクス社見学会・交流会
 - ・日時:7月3日(金) 9:50～19:30
 - ・見学先:スズキ歴史館、航空自衛隊浜松広報館エアパーク、浜松ホトニクス中央研究所
 - ・参加者:19社／24名、JASA 事務局2名

(5) その他 交流会

- 異業種交流ボウリング大会 in 品川
 - ・日時:6月19日(金)19:00～22:00
 - ・場所:品川プリンスホテル ボウリングセンター
 - ・参加者:28名(男性:14名、女性:14名)
 - ・内容:ボウリングと懇親会を実施
- 異業種交流ボウリング大会 in 池袋
 - ・日時:11月13日(金)19:00～22:30
 - ・場所:池袋ハイパーレーン
 - ・参加者:20名(男性:10名、女性:10名)
 - ・内容:ボウリングと懇親会を実施

中部支部

総括

ほぼ予定通りに事業を推進することができた。

しかし、3回予定していた技術セミナーはセキュリティー入門講座を共催したために1回となった。予定していなかったIoT関連のビジネスセミナーを追加開催した。

実施内容

1.支部会議・懇親会

日時 平成 27 年 5 月 22 日(水)15:40～20:00

場所 ザ サイプレス メルキュールホテル 名古屋

参加人数 支部会議 12 名

懇親会 30 名

支部会議 (15:40～16:20)

議事

1. 平成 26 年度事業報告の件

2. 平成 27 年度事業・予算報告の件

講演 (16:30～17:30)

MRJ の挑戦 ～国産旅客機を世界の空へ～

三菱航空機株式会社 経営企画部 グループリーダー 須山恵一氏

懇親会 (17:45～20:00)

2.海外視察 台北 6 月 3 日～6 日

Computex Taipei 視察と台湾の地元企業訪問を目的に実施。今年度も非会員 1 名が参加。

3 年連続で非会員が参加。

地元企業は台北の PC ボードメーカー Avalue と工業技術院(ITRI)の台北事務所(ITRI をスピノフした会社の事務所に新竹より 2 名の研究者が来訪)を訪問し、情報交換をした。

3.国内産業視察 7 月 1 日～2 日

協業委員会と共に札幌協業セミナーを 1 日に開催、35 名の出席を得て、盛会であった。

中部からの参加者はパネラーとして中部会員 5 社が参加。

協業に関する問い合わせを多数いただいて、トライアル発注を検討中の事例もある。

2 日は北大の产学連携関係の牧内特任教授と複合情報学の川村准教授を訪問。

4.ボーリング大会

日 時 平成 27 年 10 月 30 日(金) 18 時 30 分

場 所 スポルト名古屋

参加者 59 名

普段顔を合わせない、各社の社員がボーリングを通して親睦を深めることができた。

5.支部会議

日時 12 月 2 日 17 時より

場所 蔦茂

支部会議

1. 来年度の事業活動と予算を検討議題

2. 名古屋市商工会議所のマネージメント関係の教育紹介

18 時半より忘年会を兼ねた懇親会

名大高田先生や中部大桐山先生をはじめ 32 名が参加

6.”つながる”製品のセキュリティ入門講座

～IoT 時代の新たな脅威に向けたセキュリティへの取り組み～

中部経産局と共にセミナーとワークショップを開催

ワークショップは 3 回の演習形式で実際にセキュア開発プロセスを学んだ

日時 11月16日、12月8日、1月18日 13:30～16:30 ウインクあいち
講師 名古屋大学 大学院情報科学科 松原 豊先生
演習 「脅威分析」を4グループに分けて実施
1月18日には終了後懇親会を開催し、参加者の情報交換を行った。
セミナーには30名、ワークショップは各回 20名前後が参加

7.組込みシステム産業振興機構殿が名古屋で開催の以下のフォーラムに参加

脇田支部長がJASAの紹介と中部支部の活動を報告
全国組込み産業フォーラム(招待者及び参加団体関係者のみ)
2016年2月19日(金)10:00～14:15(12:20～13:20 昼食)
全国組込み産業フォーラム・地域連携セミナー(オープンイベント)
2016年2月19日(金)14:45～17:30
会場 名古屋大学工学部 工学研究科中央棟

8.技術セミナー

「ディープラーニングによる画像認識と応用事例」
日時 3月4日 15時00分～17時00分 開催場所 東桜会館
講師 中部大学 工学部 情報工学科 講師 山下 隆義先生
22名参加
ディープラーニングの基礎から最新の研究までを詳細に解説いただいた。

9.ビジネスセミナー

「IoTビジネス最前線」
日時 3月8日 15時～16時45分 開催場所 萩原電気(株)会議室
講師 株式会社ユビキタス代表取締役社長 佐野 勝大氏
11名参加
IoTビジネスの考え方や実例を詳細に解説いただいた。

10.マネージメントセミナー

日 時 3月10日(木) 15時～17時
場 所 東桜会館
講 師 名古屋大学大学院 経済学研究科 准教授 犬塚 篤 様
テー マ 「意思決定の科学と実践」
17名参加

11.アジャイル研究会

毎月第3水曜日に会場持ち回りで開催
デンソー技研の古畑氏に引き続きアドバイザをお願いし各社の持っている組込みシステム開発における事例や課題改善手法を検討。
11月19日にETセミナーで検討内容を発表。
また、JASA ブースでの同内容の発表を2回実施。
アジャイル魂への活動内容を報告。
来期は仕上げの年としてガイドライン等の成果物作成を目指す。

12.定例会

第1回
日 時 3月31日 15時～17時
場 所 三幸電子株式会社 会議室
出席者 9名
・27年度活動計画の説明

第2回

日 時 8月5日 15時～17時
場 所 三幸電子株式会社 会議室
出席者 8名
・前半の活動報告と後半の活動予定などを検討

北陸支部

1. 北陸支部会議の開催

6月16日(火)午後7時から 北陸支部例会を開催した。

平成26年度の事業報告・決算報告、平成27年度の事業計画・収支予算案について、協議・採択するとともに、会員増強策、視察研修先、組込み技術の普及・啓発に係る技術講習の実施方法等について協議した。

2. 視察研修

フィリピン・マニラにおいて、フィリピンおよび東南アジアにおける農業ITと衛星データの活用に係る可能性について視察・調査を行いました。

実施日:平成27年9月29日(木)～10月1日(日)

視察機関:富士通フィリピン、富士通テンコーコーポレートフィリピン、富士通ダイテック

参加者数:会員企業6社6名、非会員企業1社1名 合計7名

3. 後援の実施

JASA 北陸支部に対し、後援名義の使用要請があり承諾した。

事業名:ふくいITフォーラム 2015

主催:福井県IT産業団体連合会

開催期間:10月8日(木)、9日(金)の2日間開催

開催場所:福井県産業会館1号館、福井県中小企業産業大学校

来場者数:15,883名

4. その他

他団体の役員会等への参加

(1)一般社団法人福井県情報システム工業会理事会へ参加し、意見交換等を行った。

① 5月23日(金)

福井県および県内各市町から提供されるオープンデータを活用したアプリの開発等に関する意見交換を行った。

② 7月14日(木)、8月31日(月)

(公財)産業雇用安定センターと一般社団法人福井県情報システム工業会とが開催した「人材不足に対応した高年齢者活用のシステム構築事業」に係る協議会に出席し、意見交換を行った。

③ 9月14日(月)

福井工業大学が実施する「产学連携講座」への講師派遣について依頼した。

④ 11月9日(月)
・福井大学のソフトウェア工学への講師派遣について依頼した。
・一般社団法人福井県情報システム工業会理事会が主催する視察研修に参加した。
(株式会社小松製作所)

⑤ 9月1日(火)、10月22日(木)、12月1日(火)、1月19日(火)
一般社団法人福井県情報システム工業会が実施する生涯現役システム構築事業に係る検討委員会に参加し、意見交換した。

⑥ 1月25日(火)
一般社団法人福井県情報システム工業会が開催した生涯現役システム構築事業に係る普及啓発セミナーに参加し、意見交換した。

⑦ 3月7日(月)
一般社団法人福井県情報システム工業会と県内大学とが実施した情報交換会に参加し、就職・採用における大学と企業が求めるものの問題点・改善方法、产学研官連携を推進するための方策等について、意見交換を行った。

(2)福井県IT産業団体連合会役員会へ参加し、意見交換等を行った。

① 6月25日(木)
・「ふくいITフォーラム 2015」開催について。
・ふくいソフトコンペティション 2015 開催について。

② 1月19日(水)
平成27年度事業報告・決算及び28年度事業計画・予算についての審議に参加した。

(3)福井県経済団体連合会主催事業への参加

① 8月26日(水)～27日(木)
福井県経済界サマースクールに参加して、知事をはじめ各種業界団他の代表及び行政、大学関係者と意見交換を行った。

② 11月19日(木)
台北駐日経済文化代表処 沈 駐日代表を囲む福井県経済界首脳懇談会に参加して、ビジネス連携促進等について意見交換した。

③ 1月30日(土)
福井県経済界首脳懇談会に参加して、ビジネス連携促進等について意見交換した。
開催場所:福井市商工会議所地下コンベンションホール
講 話:「最近の経済情勢と金融・商社」
特別出席者:内閣総理大臣補佐官(政策企画担当)兼内閣広報官 長谷川栄一
株式会社千葉銀行 取締役頭取 佐久間英利
三井物産株式会社 顧問 細溝清史

近畿支部

・支部会議(1) 平成27年支部会議
「日 時」 4月28日(火)15:00～15:50
「場 所」 大阪産業創造館 6階 会議室A
「出 席 者」 27名
「議 題」 1. 平成26年度事業計画案に基づく収支明細の確認 (満場一致で了承)
2. 支部役職者改選について ()
3. 平成27年度事業計画案及び収支予算案の確認 ()

〈交流懇親会〉
「場 所」 大阪産業創造館 16階 レストラン スターアイル
「出 席 者」 35名

- ・支部会議(2)
 - 「日 時」 5月 27 日(水)15:00～15:50
 - 「場 所」 大阪産業創造館 6階 会議室 D
 - 「出 席 者」 20名
 - 「議 題」 技術ワーキンググループ活動動向、ET West 2015 進捗状況報告、レセプションパーティについて、平成 27 年度支部活動について、KISA ビジネスカンファレンス案内、京都スマートシティメッセ in けいはんな報告、本部報告を行った
- ・5月会員月例会
 - 「日 時」 5月 27 日(水)16:00～17:00
 - 「場 所」 大阪産業創造館 6階 会議室 D
 - 「出 席 者」 20名
 - 「内 容」 株式会社システムプランニング・中垣政之氏
事業紹介(会社概要、指紋認証システム紹介)
- ・支部会議(3)
 - 「日 時」 7月 9 日(水)16:00～17:00
 - 「場 所」 京都工業会館 2会議室
 - 「出 席 者」 17名
 - 「議 題」 総務、技術ワーキンググループ活動動向、ET West 2015 報告、KISA ビジネスカンファレンス報告、社員総会報告を行った
- ・支部会議(4)
 - 「日 時」 9月 16 日(水)14:00～15:00
 - 「場 所」 大阪産業創造館 6階 会議室 D
 - 「出 席 者」 17名
 - 「議 題」 総務、技術ワーキンググループ活動動向、ET ロボコン関西地区大会案内、
下期支部活動について
- ・IPA 事業成果発表会
 - 「日 時」 9月 16 日(水)15:00～16:00
 - 「場 所」 大阪産業創造館 6階 会議室 D
 - 「出 席 者」 17名
 - 「内 容」 IPA/SEC より「組込みシステム技術に対する IPA/SEC の取り組み」
- ・近畿経済産業局・情報政策課との意見交換会
 - 「日 時」 9月 16 日(水)16:00～17:00
 - 「場 所」 大阪産業創造館 6階 会議室 D
 - 「出 席 者」 17名
 - 「内 容」 情報政策課・横井課長補佐
「経済産業省の情報関連政策について」
- ・支部会議(5)
 - 「日 時」 11月 27 日(金)14:00～15:00
 - 「場 所」 大阪産業創造館 6階 会議室 D
 - 「出 席 者」 19名
 - 「議 題」 総務、技術ワーキンググループ活動動向、平成 28 年度支部予算について、
KISA 賀詞交歓会案内、ET ロボコン関西地区大会報告
- ・11月会員月例会
 - 「日 時」 11月 27 日(金)15:00～15:30
 - 「場 所」 大阪産業創造館 6階 会議室 D
 - 「出 席 者」 19名

「 内 容 」 株式会社シー・シェルコー・ポレーションより、フリースケール製マイコン
i.MX6UL スタータボード製品紹介

・マイナンバー制度セミナー

「 日 時 」 11月 27日(金)15:30～16:30
「 場 所 」 大阪産業創造館 6階 会議室D
「 出 席 者 」 19名
「 内 容 」 石橋経営会計事務所の石橋研一所長による、マイナンバー制度の実務的な
セミナー

・支部会議(6)

「 日 時 」 2月 26日(金)14:30～15:25
「 場 所 」 大阪産業創造館 6階 会議室D
「 出 席 者 」 19名
「 内 容 」 総務、市場、技術ワーキンググループ活動動向、KISA賀詞交歓会報告、
近畿情報システム産業協議会について、来年度支部活動予定について

・2月会員月例会

「 日 時 」 2月 26日(金)15:30～16:00
「 場 所 」 大阪産業創造館 6階 会議室D
「 出 席 者 」 19名
「 内 容 」 株式会社 iTesT 「SVN for PRO 製品紹介」

・近畿経済産業局・情報政策課との意見交換会

「 日 時 」 2月 26日(水)16:05～17:00
「 場 所 」 大阪産業創造館 6階 会議室D
「 出 席 者 」 19名
「 内 容 」 情報政策課・石原課長 「関西のIoT振興策について」
(アクションプランとIoTの売り込み方、IoT推進ラボの動きとともにづくり補助金)

・各種セミナー

※第1回近JASAセミナー(ET West 2015 テクニカルセッション受講)

「 日 時 」 6月 10日(水)、11日(木)
「 場 所 」 グランフロント大阪 コングレコンベンションセンター
「 出 席 者 」 延べ13名

※第1回市場開発・技術交流フォーラム

「 日 時 」 7月 9日(木)15:00～16:00
「 場 所 」 株式会社たけびし
「 出 席 者 」 18名
「 内 容 」 たけびしフェア見学

※第1回総務交流フォーラム

「 日 時 」 7月 29日(金)15:00～17:00
「 場 所 」 大阪会館 G会場
「 出 席 者 」 24名
「 内 容 」 「コミュニケーション力が高まる言葉のテクニック」
講師:日本リレーション株式会社 浅尾 京子氏

※第2回総務交流フォーラム

「 日 時 」 10月 28日(水)15:00～17:00
「 場 所 」 阪急ターミナルスクエア・17「ゆり」
「 出 席 者 」 15名
「 内 容 」 第1部「劇的採用選考ビフォーアフター」

～中小企業にしかできない、とておき採用選考～
第2部「職場のトラブルから学ぶ！実践・人事労務管理」
～基本を守り、良いものを取り入れ、企業独自に発展させていく
人事労務管理～

※第2回近JASAセミナー

「日時」 10月28日(水)15:00～17:00
「場所」 阪急ターミナルスクエア・17「ばら」
「出席者」 26名
「内容」 「IoTでの主導権を巡り“群雄割拠”一標準化推進グループの最新動向」

※交流祭典2015

「日時」 10月28日(水)18:00～20:30
「場所」 MONSOON CAFE 茶屋町
「出席者」 79名
「内容」 エンジニア志望の学生と、先輩組込みシステムエンジニアとの交流を目的とし、JASA及び組込みシステム業界を広く知っていただくため開催

※市場ワーキングセミナー

「日時」 11月25日(水)14:00～16:30
「場所」 大阪産業創造館 5階 研修室D
「出席者」 21名
「内容」 営業マンを対象とし、コミュニケーション力のスキルアップと、市場で役立つ円滑なコミュニケーション手法を学ぶ

※第3回近JASAセミナー

「日時」 1月27日(水)15:00～17:00
「場所」 大阪産業創造館 5階 研修室C
「出席者」 13名
「内容」 「我々を取り巻く環境問題とIT技術での対応」

※第3回総務交流フォーラム

「日時」 2月19日(金)15:00～17:00
「場所」 大阪産業創造館 5階 研修室D
「出席者」 15名
「内容」 「総務部門が知っておくべきマルウェア対策」

・視察

※国内(つくば)視察研修

「日時」 3月2日(水)～3日(木)
「参加者」 11名
「内容」 宇宙航空研究開発機構筑波宇宙センター、サイバーダイン株式会社スタジオ見学

・展示会

※京都スマートシティメッセ in けいはんな

「日時」 5月21日(木)、22日(金)9:30～17:30
「場所」 けいはんなオープンイノベーションセンター
「来場者数・出展企業」6,200名/115社・団体、107小間
「内容」 「スマートシティエキスポ世界会議」との連携、協働のもとで、世界各地域の政府、自治体、企業、大学等による地域間交流や技術交流等を促進し、拡大するスマートシティ市場への参入や新たな市場創造に貢献するため開催 JASAブースを出展

※Embedded Technology West 2015(Smart Energy Japan 2015 in Osaka と併催)

「日 時」 6月 10 日(水)、11 日(木)10:00～17:00

「場 所」 グランフロント大阪 コングレコンベンションセンター

「来場者数・出展企業」6,539 名/131 社・団体、183 小間

「内 容」 組込み専門技術展／カンファレンス

・その他

※新入社員ビジネスマナー研修講座(関西電子情報産業協同組合と共催)

「日 時」 4月 6 日(月)、7 日(火)9:30～17:00

「場 所」 大阪産業創造館 5 階 研修室 C,D

「参 加 者」 JASA より 1 名

「目的・内 容」 新卒社員が企業人・社会人として活躍するために、身につけておくべきビジネスマナーに関する基本を習得するため開講

※近畿情報システム産業協議会ビジネスカンファレンス

「日 時」 6月 26 日(金)12:45～18:45

「場 所」 京都コンピュータ学院 京都駅前校

「参 加 者」 170 名(JASA より 23 名)

「目的・内 容」 加盟 7 団体の会員企業が集まり、これまで付き合いがない企業と交流することにより、新しいビジネスチャンスを創造するため実施。

今回は京都府の IT 企業ならびにユーザー企業とも交流

※ET ロボコン 2015 関西地区大会 1 日目

「日 時」 10月 3 日(土)

「場 所」 京都コンピュータ学院 京都駅前校

「内 容」 会場準備、試走

「参 加 者」 125 名(選手:98 名、スタッフ:27 名)

ET ロボコン 2015 関西地区大会 2 日目

「日 時」 10月 4 日(日)

「場 所」 京都コンピュータ学院 京都駅前校

「内 容」 競技会、モデルワークショップ、表彰式、懇親会

「参 加 者」 283 名

(選手:147 名、来賓・見学者:101 名、スタッフ:35 名)

※近畿情報システム産業協議会新春 IT 振興フォーラム並びに賀詞交歓会

「日 時」 1月 8 日(金)15:00～18:00

「場 所」 大阪科学技術センター 大ホール、中ホール、小ホール

「出 席 者」 220 名(内 JASA21 名)

「内 容」 新春 IT 振興フォーラム「経済予測:2016 年に何が起きるか?」

講師:日本経済調査協議会 専務理事 杉浦 哲郎氏

(前みずほ総合研究所 副理事長)

九州支部

1. 支部会議(4 月度)

日 時:2015 年 4 月 17 日(金)

場 所:九州産業技術センター

出席者:門田専務理事、福田支部長、大北副支部長、支部員 5 名、事務局

議 題:

① 九州支部支部長交代の決議について

- ・株式会社エフェクト 代表取締役 光安 淳 様 九州支部長就任の承認
- ② 平成 26 年度九州支部活動報告について
- ③ 平成 27 年度九州支部事業計画・予算について
- ④ 平成 27 年度活動スケジュールについて

2. ETロボコン 2015 九州地区 技術教育 1、2
(運営主体:NPO法人 九州組込みソフトウェアコンソーシアム)
日 時:2015 年 5 月 16 日(土)、6 月 20 日(土)
場 所:九州産業大学 12 号館 107 教室
内 容:

- 開発環境・要素技術・データロギング
- 競技規約
- モデル審査基準説明
- モデリング教育
- モデリング実践トレーニング
- モデル実装トレーニング

3. 組込み総合技術展 関西 ETWest2015
日 時:2015 年 6 月 10 日(水)～11(木)
場 所:グランフロント大阪 コングレコンベンションセンター
出席者:浅川副支部長

4. ETロボコン 2015 九州地区大会 試走会 1、2
(運営主体:NPO法人 九州組込みソフトウェアコンソーシアム)
日 時:2015 年 7 月 18 日(土)、8 月 22 日(土)
場 所:九州産業大学 1 号館 7F 大会議室
内 容:

- 各チーム試走

5. 支部会議(9 月度)
日 時:2015 年 9 月 3 日(木)
場 所:九州産業技術センター
議 題:

- 1. 九州支部 新支部長就任のあいさつ
- 2. 2015 年度 九州セミナーについて
- 3. 2015 年度 スケジュール確認について
- 4. その他

6. ETロボコン 2015 九州北地区大会
(運営主体:NPO法人 九州組込みソフトウェアコンソーシアム)
日 時:2015 年 9 月 19 日(土)～20 日(日)
場 所:九州産業大学 1 号館 7F 大会議室
内 容:

- 競技会
 - (9 月 19 日(土)10:00～19:30)
 - ワークショップ、表彰式
 - (9 月 20 日(日)10:00～14:00)

結果:18チーム72名参加

○プライマリーデ部分

競 技 優 勝	:	GrowUp	株式会社エフェクト
モ デ ル ゴ ー ル ド	:	ななくまとんび	福岡大学 中西研究室(FUSE Lab)
総 合 優 勝	:	GrowUp	株式会社エフェクト
準 優 勝	:	コアファイター	株式会社コア 九州カンパニー
3 位	:	SOJORobocons	崇城大学 情報学部アハラリ研究室

○アドバンスト部門

競 技 優 勝	:	NiASET	長崎総合科学大学
モ デ ル ゴ ー ル ド	:	SOROT☆FCSK	株式会社福岡 CSK
総 合 優 勝	:	NiASET	長崎総合科学大学
準 優 勝	:	SMART-R2	九州産業大学 情報科学部
3 位	:	さわちゃんず	九州産業大学 情報科学部情報科学科

○イノベータ部門

優 勝	:	ACOT+	東海大学 基礎工学部
-----	---	-------	------------

各 賞

●IPA賞	:	NiASET	長崎総合科学大学
-------	---	--------	----------

(表彰理由)信頼性向上の要求分析と条件による走行戦略

●九州経済産業局長賞	:	ACOT+	東海大学 基礎工学部
------------	---	-------	------------

●地区特別賞	:	SOROT☆FCSK	株式会社福岡 CSK
--------	---	------------	------------

(表彰理由)mrubyを使用した走行で果敢に難所に挑戦した

☆チャンピオンシップ大会出場3チーム

デベロッパー部門

・プライマリークラス	:	GrowUp	株式会社エフェクト
・アドバンストクラス	:	NiASET	長崎総合科学大学

イノベータ部門

:	ACOT+	東海大学 基礎工学部
---	-------	------------

7. モノづくりフェア 2015 【協賛】

日 時:2015年10月14日(水)~16(金)10:00~17:00

(最終日10月16日(金)は16:00まで)

場 所:マリンメッセ福岡(福岡市博多区沖浜町7-1)

テーマ:「新たな発想と技術で未来の市場を開拓」

入場料:1,000円(消費税込み、招待券持参者は無料)

来場数:12,400人

10月14日(水)4,180人

10月15日(木)4,269人

10月16日(金)3,951人

主 催:日刊工業新聞社

8. 支部会議(11月度)

日 時:2015年11月26日(木)

場 所:九州産業技術センター

議 題:

1. 九州セミナーについて
2. 来年度事業計画・予算案について
3. 今後のスケジュールについて
4. その他

9. JASA 九州セミナー2016

～ IoT ビジネスの道しるべ～ 最高権威が語る技術とビジネスの本質

日 時:2016 年 2 月 23 日(火) 14:00～19:00

場 所:JR博多シティ 10 階会議室／交流会 ぶどうの樹(同 10 階)

(福岡県福岡市博多区博多駅中央街 1-1)

出席者:78 名

講 演:

①「情報政策について(IoT 推進ラボ、サイバーセキュリティ他)」

経済産業省 九州経済産業局 地域経済部 情報政策課 中村 誠 様

②「IoT ビジネス最前線」

株式会社ユビキタス 代表取締役社長 佐野 勝大 様

③「JASA の活動と ET ロボコンのご紹介」

JASA 九州支部 支部長 株式会社エフェクト 代表取締役 光安 淳

④「IoT 時代における組込みシステム」

東京大学大学院 情報学環・学際情報学府 教授 坂村 健 様

10. 「第 1 回 持続可能なスマートモビリティ情報基盤アーキテクチャシンポジウム」【後援】

日 時:2016 年 3 月 23 日(水) 13:00～

場 所:JR博多シティ 9 階会議室(福岡県福岡市博多区博多駅中央街 1-1)

参加費:無料

主 催:九州大学スマートモビリティ研究開発センター

文科省 科研費 基盤 S

「持続可能なスマートモビリティ情報基盤アーキテクチャ」プロジェクト

講 演:

① 「屋外大規模イベントにおける流動制御支援サービスの実現」

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 人工知能研究センター

主任研究員 山下 倫央 様

② 「持続可能なスマートモビリティ社会に向けて -プロジェクト概要-」

九州大学 主幹教授, スマートモビリティ研究開発センター長,

九州大学大学院 システム情報科学研究院

教授 福田 晃 様

③ 「動的ソフトウェアプロダクトライン+派生開発=DevOps」

福岡大学 教授 中西 恒夫 様

④ 「ライフサイクル指向アーキテクチャにおける要求, 設計,

運用情報間でのトレーサビリティ確立手法」

九州大学 システム LSI 研究センター 准教授 久住 憲嗣 様

⑤ 「利用者の状況を考慮した乗り換え案内システム」

九州大学大学院 システム情報科学研究院 准教授 峯 恒憲 様

⑥ 「足跡を利用した匿名型動線解析システムに関する研究開発」

関西大学 教授 田頭 茂明 様

⑦ 「ITS に向けた路上センシング」

九州大学大学院 システム情報科学研究院

助教 石田 繁己 様

⑧ 「行動変容に基づくモビリティ社会システム実験について」

奈良先端大学 准教授 荒川 豊 様

⑨ 「有向グラフ表現された地図データベース構造と,

それを活用した経路探索システムの研究開発」

福山大学 教授 金子 邦彦 様

事業報告の附属明細書

平成 27 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する

「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため、附属明細書は作成しない。

第2号議案 平成27年度財務諸表(案)の承認の件

平成 27 年度

財 務 諸 表 等

自 平成 27 年 4 月 1 日
至 平成 28 年 3 月 31 日

一般社団法人 組込みシステム技術協会

目 次

(ページ)

I. 財務諸表

1. 貸借対照表	
(1) 貸借対照表	58
(2) 貸借対照表内訳表	59
2. 正味財産増減計算書（損益計算書）	60～61
(1) 正味財産増減計算書（損益計算書）	60～61
(2) 正味財産増減計算書（損益計算書）内訳表	62～63
3. 財務諸表に対する注記	64
II. 財務諸表の附属明細書	65

貸借対照表

平成28年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	187,817,504	321,431,522	△ 133,614,018
未収会費	0	40,000	△ 40,000
未収入金	8,950,141	3,676,202	5,273,939
未収消費税等	3,200	0	3,200
前払費用	711,810	139,987	571,823
仮払金	32,340	0	32,340
立替金	0	289,257	△ 289,257
貯蔵品	66,930	182,118	△ 115,188
貸倒引当金	△ 60,000	△ 25,000	△ 35,000
流動資産合計	197,521,925	325,734,086	△ 128,212,161
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
退職給付引当預金	31,126,606	27,873,275	3,253,331
特定資産合計	31,126,606	27,873,275	3,253,331
(2) その他固定資産			
建物	1,078,200	0	1,078,200
建物附属設備	7,976,580	820,104	7,156,476
器具備品	2,592,100	386,594	2,205,506
ソフトウェア	553,200	546,000	7,200
電話加入権	324,056	324,056	0
差入敷金保証金	6,738,334	2,202,784	4,535,550
長期預金	100,000,000	0	100,000,000
その他の固定資産合計	119,262,470	4,279,538	114,982,932
固定資産合計	150,389,076	32,152,813	118,236,263
資産合計	347,911,001	357,886,899	△ 9,975,898
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	690,303	1,286,748	△ 596,445
未払法人税等	8,691,300	12,374,400	△ 3,683,100
未払消費税等	0	3,597,900	△ 3,597,900
仮受金	324,000	0	324,000
前受会費	4,832,000	8,100,000	△ 3,268,000
前受金	3,653,285	1,356,361	2,296,924
預り金	375,574	437,905	△ 62,331
流動負債合計	18,566,462	27,153,314	△ 8,586,852
2. 固定負債			
退職給付引当金	31,126,606	27,873,275	3,253,331
固定負債合計	31,126,606	27,873,275	3,253,331
負債合計	49,693,068	55,026,589	△ 5,333,521
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	298,217,933	302,860,310	△ 4,642,377
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
正味財産合計	298,217,933	302,860,310	△ 4,642,377
負債及び正味財産合計	347,911,001	357,886,899	△ 9,975,898

貸借対照表内訳表

平成28年3月31日現在

(单位: 円)

科 目	実施事業等会計	その格會計	法人会計	内部取引消去	合 計
I 資産の部					
1. 流動資産					
現金預金			187,817,504		187,817,504
未収入金	1,081,543	7,868,598			8,950,141
未収消費税等			3,200		3,200
前払費用	440,000	262,200			711,810
仮払金		32,340			32,340
貯蔵品	1,400	2,872			66,930
貸倒引当金		△ 52,733	62,658		△ 60,000
実施事業等会計			136,944,111	△ 136,944,111	0
法人会計		188,411,632		△ 188,411,632	0
流動資産合計	1,515,676	196,524,909	324,837,083	△ 325,355,743	197,521,925
2. 固定資産					
(1) 特定資産					
退職給付引当預金			31,126,606		31,126,606
特定資産合計	0	0	31,126,606	0	31,126,606
(2) その他固定資産					
建物			1,078,200		1,078,200
建物附属設備			7,976,580		7,976,580
器具備品			2,592,100		2,592,100
ソフトウェア			259,200		553,200
電話加入権			324,056		324,056
差入敷金保証金			6,738,334		6,738,334
長期預金			100,000,000		100,000,000
その他固定資産合計	294,000	0	118,968,470	0	119,262,470
固定資産合計	294,000	0	150,095,076	0	150,389,076
資産合計	1,809,676	196,524,909	474,932,159	△ 325,355,743	347,911,001
II 負債の部					
1. 流動負債					
未払金			318,765		690,303
未払法人税等	326,918	44,620	8,691,300		8,691,300
仮受金			324,000		324,000
前受会費			4,832,000		4,832,000
前受金			375,574		375,574
預り金			188,411,632	△ 188,411,632	0
その他会計				△ 136,944,111	0
法人会計					
流動負債合計	137,271,029	3,697,905	202,953,271	△ 325,355,743	18,566,462
2. 固定負債					
退職給付引当金			31,126,606		31,126,606
固定負債合計	0	0	31,126,606	0	31,126,606
負債合計	137,271,029	3,697,905	234,079,877	△ 325,355,743	49,693,068
III 正味財産の部					
1. 指定正味財産					
指定正味財産合計	0	0	0	0	0
2. 一般正味財産					
(うち基本財産への充当額)	△ 135,461,353	192,827,004	240,852,282		298,217,933
(うち特定資産への充当額)					
正味財産合計	△ 135,461,353	192,827,004	240,852,282	0	298,217,933
負債及び正味財産合計	1,809,676	196,524,909	474,932,159	△ 325,355,743	347,911,001

正味財産増減計算書（損益計算書）

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①特定資産運用益	(7,546)	(6,239)	(1,307)
特定資産受取利息	7,546	6,239	1,307
②受取会費	(44,878,000)	(43,210,000)	(1,668,000)
正会員受取会費	39,478,000	37,560,000	1,918,000
賛助会員受取会費	5,400,000	5,650,000	△ 250,000
③事業収益	(165,347,791)	(173,825,985)	(△ 8,478,194)
普及啓発等事業収益	130,366,279	128,323,020	2,043,259
その他事業収益	34,981,512	45,502,965	△ 10,521,453
④受取補助金等	(0)	(4,675,000)	(△ 4,675,000)
受取国庫助成金	0	4,675,000	△ 4,675,000
⑤雑収益	(549,428)	(293,415)	(256,013)
受取利息	499,600	283,235	216,365
雑収益	49,828	10,180	39,648
	経常収益計	210,782,765	222,010,639
			△ 11,227,874
(2) 経常費用			
①事業費	(160,039,228)	(157,441,558)	(2,597,670)
役員報酬	16,146,000	14,771,794	1,374,206
給与手当	21,732,142	17,614,376	4,117,766
アルバイト料	100,278	89,096	11,182
出向料	1,296,000	0	1,296,000
退職給付費用	2,450,660	2,059,140	391,520
退職金共済掛金	481,200	391,600	89,600
福利厚生費	6,032,804	5,640,560	392,244
会議費	3,336,566	3,051,632	284,934
旅費交通費	9,052,265	8,591,564	460,701
通信運搬費	1,494,803	1,339,094	155,709
減価償却費	252,000	252,000	0
消耗品費	1,333,183	808,470	524,713
印刷製本費	3,159,965	4,690,186	△ 1,530,221
賃借料	6,298,944	6,521,256	△ 222,312
支払報酬	3,264,664	4,618,965	△ 1,354,301
支払手数料	182,584	158,278	24,306
新聞図書費	983,944	43,286	940,658
水道光熱費	366,284	437,059	△ 70,775
租税公課	10,000	0	10,000
会合費	12,182,399	13,028,842	△ 846,443
E D P 費	734,492	543,650	190,842
調査委託費	67,224,914	70,566,374	△ 3,341,460
広報費	1,611,577	1,527,464	84,113
諸会費	100,000	567,325	△ 467,325
保険料	8,500	19,550	△ 11,050
雑費	203,060	109,997	93,063
②管理費	(41,766,820)	(47,848,491)	(△ 6,081,671)
役員報酬	6,054,000	7,428,206	△ 1,374,206
給与手当	4,991,366	8,637,815	△ 3,646,449
アルバイト料	0	352,500	△ 352,500
派遣料	4,193,753	3,755,023	438,730
退職給付費用	802,671	993,220	△ 190,549
退職金共済掛金	148,800	168,400	△ 19,600
福利厚生費	1,446,886	1,832,515	△ 385,629
会議費	1,342,405	1,454,848	△ 112,443
旅費交通費	2,576,679	3,137,977	△ 561,298

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
通信運搬費	215,990	349,569	△ 133,579
減価償却費	1,163,218	1,005,764	157,454
消耗品費	230,987	225,678	5,309
印刷製本費	243,621	402,497	△ 158,876
賃借料	2,412,943	3,025,632	△ 612,689
支払報酬	5,764,594	3,932,548	1,832,046
支払手数料	247,031	290,401	△ 43,370
新聞図書費	325,821	225,486	100,335
水道光熱費	165,663	189,868	△ 24,205
租税公課	3,998,600	5,297,150	△ 1,298,550
会合費	2,601,164	2,820,602	△ 219,438
E D P 費	156,574	236,178	△ 79,604
広報費	52,800	37,800	15,000
諸会費	1,835,687	1,542,178	293,509
保険料	267,829	242,816	25,013
貸倒引当金繰入	35,000	3,000	32,000
雑費	492,738	260,820	231,918
経常費用計	201,806,048	205,290,049	△ 3,484,001
評価損益等調整前当期経常増減額	8,976,717	16,720,590	△ 7,743,873
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	8,976,717	16,720,590	△ 7,743,873
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
① 固定資産除却損	(820,104)	(153,600)	(666,504)
建物附属設備除却損	820,104	0	820,104
電話加入権除却損	0	153,600	△ 153,600
② 事務所移転費	(4,009,224)	(0)	(4,009,224)
事務所移転費	4,009,224	0	4,009,224
経常外費用計	4,829,328	153,600	4,675,728
当期経常外増減額	△ 4,829,328	△ 153,600	△ 4,675,728
税引前当期一般正味財産増減額	4,147,389	16,566,990	△ 12,419,601
法人税、住民税及び事業税	8,789,766	12,433,183	△ 3,643,417
当期一般正味財産増減額	△ 4,642,377	4,133,807	△ 8,776,184
一般正味財産期首残高	302,860,310	298,726,503	4,133,807
一般正味財産期末残高	298,217,933	302,860,310	△ 4,642,377
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	298,217,933	302,860,310	△ 4,642,377

正味財産増減計算書(損益計算書)内訳表

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

(単位:円)

科 目	実施事業等会計						その他会計				法人会計	内部取引消去	合 計
	国 内 外 調 査 事 業	技術者育成事 業	開 発 高 度 化 事 業	安 全・安 心 事 業	技術啓発事業	小 計	展 示 会 事 業	競 技 会 事 業	そ の 他	小 計			
I 一般正味財産増減の部													
1. 経常増減の部													
(1) 経常収益													
① 特定資産運用益	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(7,546)	(0)	(7,546)
特定資産受取利息											7,546		7,546
② 受取会費	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(44,878,000)	(0)	(44,878,000)
正会員受取会費											39,478,000		39,478,000
賛助会員受取会費											5,400,000		5,400,000
③ 事業収益	(1,796,297)	(15,930,712)	(0)	(0)	(373,600)	(18,100,609)	(85,946,200)	(44,515,079)	(16,785,903)	(147,247,182)	(0)	(0)	(165,347,791)
普及啓発等事業収益											130,366,279		130,366,279
その他事業収益	1,796,297	15,930,712			373,600	18,100,609	95,000	44,515,079	16,785,903	16,880,903			34,981,512
④ 雑収益	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(3,530)	(545,898)	(0)	(549,428)
受取利息											499,600		499,600
雑収益											46,298		49,828
経常収益計	1,796,297	15,930,712	0	0	373,600	18,100,609	85,946,200	44,515,079	16,785,903	147,250,712	45,431,444	0	210,782,765
(2) 経常費用													
① 事業費	(21,644,331)	(23,580,789)	(2,253,170)	(1,075,662)	(7,174,892)	(55,728,844)	(20,095,287)	(46,846,015)	(37,369,082)	(104,310,384)	(0)	(0)	(160,039,228)
役員報酬	3,120,000	2,826,000	480,000	240,000	990,000	7,656,000	4,410,000	240,000	3,840,000	8,490,000			16,146,000
給与手当	4,896,788	2,447,200	100,278		1,692,032	9,036,020	7,435,147	520,400	4,740,575	12,696,122			21,732,142
アルバイト料						100,278				0			100,278
出向料										1,296,000			1,296,000
退職給付費用	494,693	488,402	57,600	28,800	154,241	1,223,736	685,602	35,799	505,523	1,226,924			2,450,660
退職金共済掛金	122,400	51,600			32,400	206,400	140,400	2,400	132,000	274,800			481,200
福利厚生費	1,270,397	772,634	54,684	27,342	423,712	2,548,769	1,838,862	124,148	1,521,025	3,484,035			6,032,804
会議費	375,719	60,329	98,910	180,587	304,712	1,020,257	24,091	7,430	2,284,788	2,316,309			3,336,566
旅費交通費	3,620,823	138,600	267,749	178,118	741,274	4,946,564	1,082,755	815,099	2,207,847	4,105,701			9,052,265
通信運搬費	497,305	122,969	7,024	3,512	72,325	703,135	418,758	64,447	308,463	791,668			1,494,803
減価償却費		252,000				252,000				0			252,000
消耗品費	235,300	264,907	7,512	3,756	80,511	591,986	343,826	93,461	303,910	741,197			1,333,183
印刷製本費	1,955,603	315,979	16,487	3,961	103,547	2,395,577	412,559	37,633	314,196	764,388			3,159,965
賃借料	1,255,913	781,637	873,344	223,900	810,798	3,945,592	997,288	235,028	1,121,036	2,353,352			6,298,944
支払報酬	296,348	733,160		120,000	593,274	1,742,782			1,521,882	1,521,882			3,264,664
支払手数料	24,250	27,810	3,888	1,620	1,728	59,296	2,970	6,264	114,054	123,288			182,584
新聞図書費	325,080		216,000			541,080			442,864	442,864			983,944
水道光熱費	84,352	48,635	3,040	1,520	23,558	161,105	107,149	3,040	94,990	205,179			366,284
租税公課						0			10,000	10,000			10,000
会合費	1,249,412	154,835	161,840	60,000	470,029	2,096,116	1,078,733	71,135	8,936,415	10,086,283			12,182,399
E D P 費	157,845	81,469	5,092	2,546	52,191	299,143	226,585	24,186	184,578	435,349			734,492
調査委託費	1,658,803	13,143,493	768,852		515,160	15,317,456	680,562	44,510,545	6,716,351	51,907,458			67,224,914
広報費					113,400	882,252	210,000	55,000	464,325	729,325			1,611,577
諸会費						0			100,000	100,000			100,000
保険料		3,300				3,300			5,200	5,200			8,500
雑費						0			203,060	203,060			203,060
② 管理費	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(41,766,820)	(0)	(41,766,820)
役員報酬									6,054,000				6,054,000
給与手当									4,991,366				4,991,366
派遣料									4,193,753				4,193,753
退職給付費用									802,671				802,671
退職金共済掛金									148,800				148,800
福利厚生費									1,446,886				1,446,886
会議費									1,342,405				1,342,405
旅費交通費									2,576,679				2,576,679
通信運搬費									215,990				215,990
減価償却費									1,163,218				1,163,218
消耗品費									230,987				230,987
印刷製本費									243,621				243,621
賃借料									2,412,943				2,412,943
支払報酬									5,764,594				5,764,594
支払手数料									247,031				247,031
新聞図書費									325,821				325,821
水道光熱費									165,663				165,663
租税公課									3,998,600				3,998,600
会合費									2,601,164				2,601,164
E D P 費									156,574				156,574
広報費									52,800				52,800
諸会費									1,835,687				1,835,687
保険料									267,829				267,829
貸倒引当金繰入									35,000				35,000
雑費									492,738				492,738
経常費用計	21,644,331	23,580,789	2,253,170	1,075,662	7,174,892	55,728,844	20,095,287	46,846,015	37,369,082	104,310,384	41,766,820	0	201,806,048

(単位：円)

科 目	実施事業等会計						その他会計				法人会計	内部取引消去	合 計
	国内外調査事業	技術者育成事業	開発高度化事業	安全・安心事業	技術啓発事業	小計	展示会事業	競技会事業	その他	小計			
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 19,848,034	△ 7,650,077	△ 2,253,170	△ 1,075,662	△ 6,801,292	△ 37,628,235	65,850,913	△ 2,330,936	△ 20,579,649	42,940,328	3,664,624	0	8,976,717
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 19,848,034	△ 7,650,077	△ 2,253,170	△ 1,075,662	△ 6,801,292	△ 37,628,235	65,850,913	△ 2,330,936	△ 20,579,649	42,940,328	3,664,624	0	8,976,717
2. 経常外増減の部													
(1) 経常外収益													
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用													
①固定資産除却損	(0	(0	(0	(0	(0	(0	(
建物附属設備除却損												820,104	(
②事務所移転費	(0	(0	(0	(0	(0	(0	(
事務所移転費												820,104	820,104
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,009,224
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,009,224
他会計振替額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 19,848,034	△ 7,650,077	△ 2,253,170	△ 1,075,662	△ 6,801,292	△ 37,628,235	65,850,913	△ 2,330,936	△ 20,579,649	42,940,328	△ 1,164,704	0	4,147,389
法人税、住民税及び事業税							0				0	8,789,766	8,789,766
当期一般正味財産増減額	△ 19,848,034	△ 7,650,077	△ 2,253,170	△ 1,075,662	△ 6,801,292	△ 37,628,235	65,850,913	△ 2,330,936	△ 20,579,649	42,940,328	△ 9,954,470	0	△ 4,642,377
一般正味財産期首残高	△ 47,418,021	△ 17,574,638	△ 8,027,499	△ 4,128,296	△ 20,684,664	△ 97,833,118	214,313,653	△ 5,597,879	△ 58,829,098	149,886,676	250,806,752	0	302,860,310
一般正味財産期末残高	△ 67,266,055	△ 25,224,715	△ 10,280,669	△ 5,203,958	△ 27,485,956	△ 135,461,353	280,164,566	△ 7,928,815	△ 79,408,747	192,827,004	240,852,282	0	298,217,933
II 指定正味財産増減の部													
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	△ 67,266,055	△ 25,224,715	△ 10,280,669	△ 5,203,958	△ 27,485,956	△ 135,461,353	280,164,566	△ 7,928,815	△ 79,408,747	192,827,004	240,852,282	0	298,217,933

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 「公益法人会計基準」（平成20年4月11日 平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会）を採用している。

(2) 有価証券の評価基準及び評価方法（ただし、当年度は該当なし。）
①満期保有目的の債券……償却原価法（定額法）
②その他の有価証券
a. 時価のあるもの……期末日の市場価格等に基づく時価法
b. 時価のないもの……移動平均法による原価法

(3) 固定資産の減価償却の方法
①建物……………定額法による。
②建物附属設備……………定率法による。
③器具備品……………定率法による。
④ソフトウェア……………定額法による。

(4) 引当金の計上基準
①退職給付引当金……………期末要支給額の一部を外部積立てし、残額を債務に計上している。
②貸倒引当金……………法人税法に基づく繰入限度額を計上している。

(5) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

(6) リース取引の処理方法
所有権移転外ファイナンス・リース取引については、原則として通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

2. 特定資産の増減額及びその残高

(単位：円)				
科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
退職給付引当預金	27,873,275	3,253,331	0	31,126,606
合 計	27,873,275	3,253,331	0	31,126,606

3. 特定資産の財源等の内訳

(単位：円)				
科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
退職給付引当預金	31,126,606	0	0	31,126,606
合 計	31,126,606	0	0	31,126,606

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

(単位：円)			
科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	1,080,000	1,800	1,078,200
建物附属設備	8,570,528	593,948	7,976,580
器具備品	3,108,100	516,000	2,592,100
ソフトウェア	1,584,000	1,030,800	553,200
合 計	14,342,628	2,142,548	12,200,080

財務諸表の附属明細書

1. 特定資産の明細

(単位：円)

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
特定資産	退職給付引当預金	27,873,275	3,253,331	0	31,126,606
	特定資産計	27,873,275	3,253,331	0	31,126,606

2. 引当金の明細

(単位：円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
貸倒引当金	25,000	35,000	0	0	60,000
退職給付引当金	27,873,275	3,253,331	0	0	31,126,606

平成 27 年度公益目的支出計画実施報告(案)

1. 公益目的財産額(一般社団法人移行時点の正味財産額) 283,075,868 円

2. 平成 27 年度の公益目的支出差額(①+②-③) 133,661,158 円

① 平成 26 年度末日の公益目的収支差額 96,032,923 円
② 平成 27 年度の公益目的支出の額 55,728,844 円
③ 平成 27 年度の実施事業収入の額 18,100,609 円

3. 平成 27 年度末日における公益目的財産残額(1-2) 149,414,710 円

4. 公益目的支出計画の完了予定事業年度の末日

平成 33 年 3 月 31 日(当初計画どおり)

5. 平成 27 年度実施事業の収支状況

	公益目的支出額	実施事業収入額	収支差額
国内外調査事業	21,644,331 円	1,796,297 円	19,848,034 円
技術者育成事業	23,580,789 円	15,930,712 円	7,650,077 円
開発高度化事業	2,253,170 円	0 円	2,253,170 円
安全・安心関連事業	1,075,662 円	0 円	1,075,662 円
技術啓発事業	7,174,892 円	373,600 円	6,801,292 円
合 計	55,728,844 円	18,100,609 円	37,628,235 円

* 明細は、財務諸表の正味増減財産計算書内訳表のとおり。

監査報告書

一般社団法人 組込みシステム技術協会

会長 築田 稔 殿

平成28年5月17日

監事 小幡忠信



監事 小森谷 豊



私たち監事は、平成27年4月1日から平成28年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上のことから、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに公益目的支出計画実施報告書について検討いたしました。

2 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 財務諸表及びその附属明細書の監査結果

財務諸表及びその附属明細書は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

(3) 公益目的支出計画実施報告書の監査結果

公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い、法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認めます。

以上